

平成 28 年度（2016 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告  
（その 1）

- 全国学力・学習状況調査
- 箕面市体力・運動能力・運動習慣等調査

平成 28 年（2016 年）11 月

箕面市教育委員会

# 目次

箕面子どもステップアップ調査の概要	1
<b>全国学力・学習状況調査の結果分析について</b>	
全国学力・学習状況調査について	7
平成28年度全国学力・学習状況調査〈概要〉	9
平成28年度全国学力・学習状況調査〈概要〉小学校国語AB	11
平成28年度全国学力・学習状況調査〈概要〉小学校算数AB	13
平成28年度全国学力・学習状況調査〈概要〉中学校国語AB	15
平成28年度全国学力・学習状況調査〈概要〉中学校数学AB	17
箕面市の児童生徒の「学習状況調査」結果から	19
<b>体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について</b>	
平成28年度箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	25
各種目結果の学年別経年比較	
1年（小1）	28
2年（小2）	29
3年（小3）	30
4年（小4）	31
5年（小5）	32
6年（小6）	33
7年（中1）	34
8年（中2）	35
9年（中3）	36
運動習慣等調査の結果から	37
運動習慣等調査と体力合計点との関係	39
箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査　まとめ	41

# 箕面子どもステップアップ調査の概要

## 1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

○全国学力・学習状況調査

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

があります。

箕面市では、国の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

○箕面学力調査

○英語能力判定テスト

○箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査

○学習状況・生活状況調査

○学校生活アンケート

箕面市では、これら国の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

箕面ステップアップ調査は、小中9年間を通して子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため行うものです。

この調査により、毎年、子どもたち一人ひとりの各学年における学力・体力・生活の状況を把握・分析し、教員の指導力・授業力を高めるとともに、翌年度の各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9年間を通して継続的かつきめ細やかに子どもたちの総合力の育成を進めます。

		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力調査	全国学力 学習状況 調査	4月						● 国語 算数			● 国語 数学
	箕面学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	今年度は 実施しません									○
箕面市体力・運動能力、 運動習慣等調査		5～6月	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	●★ 8種目	● 8種目	● 8種目	●★ 8種目	● 8種目
生活 状況 調査	学習状況 生活状況調査	6月、12月									
	学校生活 アンケート	10月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

## 2 箕面子どもステップアップ調査内容

### 実施の経過

平成19年度から全校で始まった「全国学力・学習状況調査」は、平成22年度(2010年度)・平成24年度(2012年度)と抽出校で調査を実施しました。しかし、本市では抽出ではなく全校で取り組む必要があると考え、市として全校で調査を実施しました。

平成23年度(2011年度)は、東日本大震災のため中止となりましたが、平成25年度(2017年度)からは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、再度、国として全校で実施しました。今年度も引き続き、全校が参加する悉皆調査により実施しました。

### 調査の目的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 学力調査

- ▣▼学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。
- ▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

### 内容

<p>(1) 全国学力・学習状況調査</p> <p>【6年生(小6)】 国語 A・B、算数 A・B</p> <p>【9年生(中3)】 国語 A・B、数学 A・B</p> <p>問題Aは、主に知識・理解に関する問題</p> <p>問題Bは、主に活用に関する問題</p> <p>(2) 箕面学力調査</p> <p>【1～2年生(小1～小2)】 国語・算数</p> <p>【3～6年生(小3～小6)】 国語・社会・算数・理科</p> <p>【7～8年生(中1～中2)】 国語・社会・数学・理科・英語</p> <p>なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施</p> <p>※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査</p> <p>(3) 英語能力判定テスト ※今年度は実施しません</p> <p>【9年生(中3)】 英語検定3級レベルを実施</p>	□□
--	----

## 体力調査

- ▼子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。
- ▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

### 内容

- (1) 箕面体力・運動能力調査……「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施
- ◎調査種目
- 【1～3年生(小1～小3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ
  - 【4年生(小4)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン
  - 【5～9年生(小5～中3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈
- (2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査……全学年で実施

□

## 生活状況調査

- ▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情\*などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

### 内容

- ・ 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・ 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

## 3 報告の概要

この報告は、ステップアップ調査のうち、4月の実施した全国学力・学習状況調査、及び5月から6月にかけて実施した箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査の市全体の結果の概要です。

各学校では、それぞれに「全国学力・学習状況調査概要版」を作成し、保護者に報告します。

## 4 箕面市の指標と目標値、実施済みの一部結果

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

□

平成28年度(2016年度)の目標値と結果

箕面学力調査の結果		校種	学年	教科	目標値	箕面市	結果※
1	<指標> 全国学力・学習状況調査の学力調査の平均正答率 <目標値> 全国トップの都道府県の平均正答率を上回る。	小学校	6年	国語A	78.6	77.3	●
				国語B	64.0	61.0	●
				算数A	82.4	81.2	●
				算数B	53.5	50.3	●
		中学校	3年	国語A	79.1	78.0	●
				国語B	72.4	69.1	●
				数学A	69.3	69.2	●
				数学B	50.8	50.0	●
学習状況・生活状況調査		校種	学年	目標値	箕面市	結果※	
2	<指標> 家庭学習の時間に関わる質問項目の回答結果 小学生:1時間以上 中学生:2時間以上	小学校	3年	41.9%	2学期に実施		
			4年	47.6%			
			5年	64.3%			
			6年	66.6%			
		中学校	1年	41.7%			
			2年	43.1%			
			3年	76.7%			
学習状況・生活状況調査		校種	学年	目標値	箕面市	結果※	
3	<指標> いじめのサインに関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年	/	2学期に実施		
			2年				
			3年				
			4年				
			5年				
			6年				
		小学校平均	82.0%				
		中学校	1年				
			2年				
			3年				
中学校平均	95.0%						
学習状況・生活状況調査		校種	学年	目標値	箕面市	結果※	
4	<指標> 自己肯定感に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年	/	2学期に実施		
			2年				
			3年				
			4年				
			5年				
			6年				
		小学校平均	85.0%				
		中学校	1年				
			2年				
			3年				
中学校平均	80.0%						

	英語能力判定テスト	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
5	<指標> 英検3級程度の力	中学校	3年	80.0%	3学期に実施	
	箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	校種	学年	平均超えの種目数 ／全種目数	達成率	結果※
6	<指標> 全8種目それぞれの男女別学年平均値  <目標値> 全学年・全種目で全国平均値を上回る。  ■種目 (1)握力 (2)上体起こし (3)長座体前屈 (4)反復横とび (5)20mシャトルラン (6)50m走 (7)立ち幅とび (8)ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール)  ※男女別の集計ですので、各学年とも種目数は2倍 になっています。	小学校	1年	0 / 6	0.0%	●
			2年	0 / 6	0.0%	●
			3年	0 / 6	0.0%	●
			4年	0 / 10	0.0%	●
			5年	2 / 16	12.5%	●
			6年	2 / 16	12.5%	●
		中学校	1年	2 / 16	12.5%	●
			2年	2 / 16	12.5%	●
			3年	4 / 16	25.0%	●
	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
7	<指標> 学級環境に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年	/	83.0%	2学期に実施
			2年			
			3年			
			4年			
			5年			
			6年			
		小学校平均	83.0%			
		中学校	1年	/	86.0%	
			2年			
			3年			
中学校平均	86.0%					
	学校生活適応状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
8	<指標> 全学年での不登校(傾向)児童・生徒の千人率	小学校	1年	0	年度末に集計	
			2年	2.5		
			3年	0.9		
			4年	1.7		
			5年	5.2		
			6年	4.3		
		中学校	1年	12.2		
			2年	35.7		
			3年	17.7		
		平均値	9.1			

※ 結果の欄について、「◎」は目標達成、「●」は未達成を表しています。

## ■ 全国学力・学習状況調査の結果

### 【結果】

学力調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に国語と算数・数学の2教科で行われ、それぞれ基礎的な知識を問う問題Aと、知識を活用する力を問う問題Bに分かれています。

小・中学校ともに全ての教科で全国平均及び府内平均を上回る結果となりましたが、全国トップの都道府県には及びませんでした。

### 【取組の経過】

調査ごとに結果を分析し公表してきました。分析で明らかになった課題については、各学校で子どもたちの実情に応じて取組を進めてきました。また、学力向上には、授業改善が不

可欠であるとの考えのもと、平成 25 年度より秋田県由利本荘市と盛んに交流することで学んだことや、授業研究を通して「算面の授業の基本」を策定し、平成 26 年度から市内全校で実施しています。

#### 【分析】

(1)全国トップの都道府県の結果を分析すると、全国平均に比べ低い無答率が見られました。問題 B の中で算面市の無答率が最も高かった問題の全国トップの無答率を見ると、小学校国語 B で全国トップの秋田県は「紹介したい内容を書く問題」の無答率が 2.9 ポイント算面市より低く、小学校算数 B で全国トップの石川県は「示された式に数値を当てはめて答えを求める問題」の無答率が 4.4 ポイント算面市より低いという結果が見られました。中学校国語 B で全国トップの秋田県は「情報を読み取り自分の考えを書く問題」の無答率が 10.6 ポイント算面市より低く、中学校数学 B で全国トップの福井県は「問題解決の方法を振り返って新たな方法を考える問題」の無答率が 5.6 ポイント算面市より低いという結果が見られました。これらのことから、算面市と全国トップの都道府県との差は「記述式問題の無答率」であることがわかりました。

日々の授業で、子どもたちが主体的に学習課題の言葉や式などの意味を理解しながら解決し、自分なりの考えを他者に説明する活動が不十分であったことが考えられます。

(2)調査結果の分析で明らかになった課題を焦点化し、その課題の解決のため具体的な目標を立て、達成のための指導内容や指導方法を全教職員で共有し、子どもたちの学力の状況をきめ細かく把握しつつ、日々の授業で継続的に地道な取組を進めていきます。

### ■ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

#### 【結果】

1年生から9年生まで男女別で調査した種目の総数は、108 種目です。その内、全国平均を上回った種目数は 12 種目で、全体の 11.3%でした。全学年、全国平均を上回るという目標は、達成できませんでした。

#### 【取組の経過】

本市の体力が全国を下回るようになったときから、体力向上にむけた計画を策定してきました。その一環として、体力向上用具の配布や、体力向上ボランティアなどの取組も行ってきました。

#### 【分析】

(1)全体的に全国平均に比べて低い結果が見られました。中でも子どもが初めて実施した種目は、より低い傾向があり、様々な動きの経験が不足していることが考えられます。また、運動能力の向上には日常的に体を動かす習慣は大切ですが、体力調査と同時に実施した運動習慣調査で、本市の子どもたちは運動する機会が全国に比べて少ないことも明らかになっています。日常の運動量が少ないことも体力向上につながらない要因の一つと考えられます。

(2)学校では、体力向上に向けた行事や子どもたちの主体的なイベント等の活動も行われています。日々の体育の授業で、様々な運動を経験させたり運動量を確保したりするとともに、遊びの中でも体を動かしたいと思えるような運動への意欲を高め、行事やイベントとの関連を図ることで体力向上につなげていきます。

# 平成28年度(2016年度)箕面子どもステップアップ調査 全国学力・学習状況調査について

## 1 実施日

平成28年(2016年)4月19日(火曜日)

## 2 調査対象

市内公立小学校6年生全児童及び、中学校3年生全生徒

## 3 調査内容

学力状況調査

学力状況調査(小学校6年生:国語A・B、算数A・B)

学力状況調査(中学校3年生:国語A・B、数学A・B)

問題Aは、主に知識・理解に関する問題

問題Bは、主に活用に関する問題

児童学習状況調査及び生徒学習状況調査

## 4 参加人数

小学校6年生:14校 1,255人

中学校3年生:8校 1,120人 計2,375人

## 5 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上に向けて連携した取組につなげる。

## 6 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2) 個々の学校名を明らかにするなど、学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

## 7 公表の手段

- (1) 教育委員会  
教育委員会ホームページ
- (2) 各学校
  - ①各校の実情に応じて「学校（学年）だより」などで説明
  - ②学校協議会、懇談会などで説明

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果

### 小学校 <平均正答率の状況> ( )内は順位

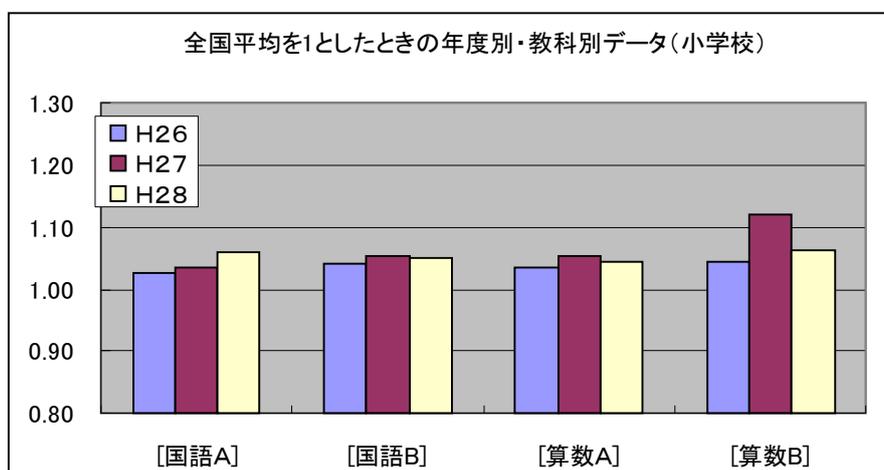
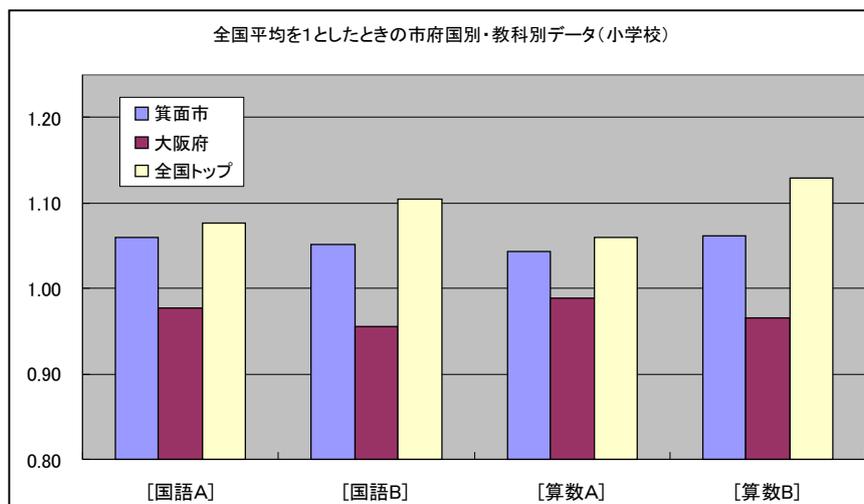
学校名	[国語A]	[国語B]	[算数A]	[算数B]
箕面市	77.3 (3)	61.0 (4)	81.2 (4)	50.3 (5)
大阪府	71.3 (38)	55.4 (46)	76.9 (31)	45.8 (30)
<b>全国</b>	<b>73.0</b>	<b>58.0</b>	<b>77.8</b>	<b>47.4</b>
都道府県全国トップ	78.6	64.0	82.4	53.5
都道府県名	石川	秋田	石川	石川

### <全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	[国語A]	[国語B]	[算数A]	[算数B]
箕面市	1.06	1.05	1.04	1.06
大阪府	0.98	0.96	0.99	0.97
都道府県全国トップ	1.08	1.10	1.06	1.13
都道府県名	石川	秋田	石川	石川
都道府県トップに対する割合	98.3	95.3	98.5	94.0

注1：箕面市欄の( )内は、全国都道府県に置き換えた場合の順位。全国は公立の平均。以下同じ。

注2：問題Aは基本的な知識を、問題Bは知識を活用する力を問うもの。



## 中学校 <平均正答率の状況> ( )内は順位

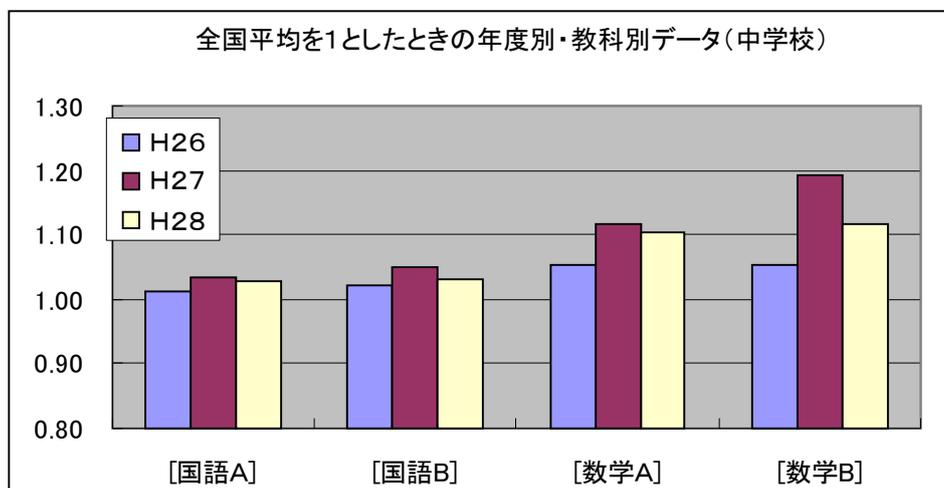
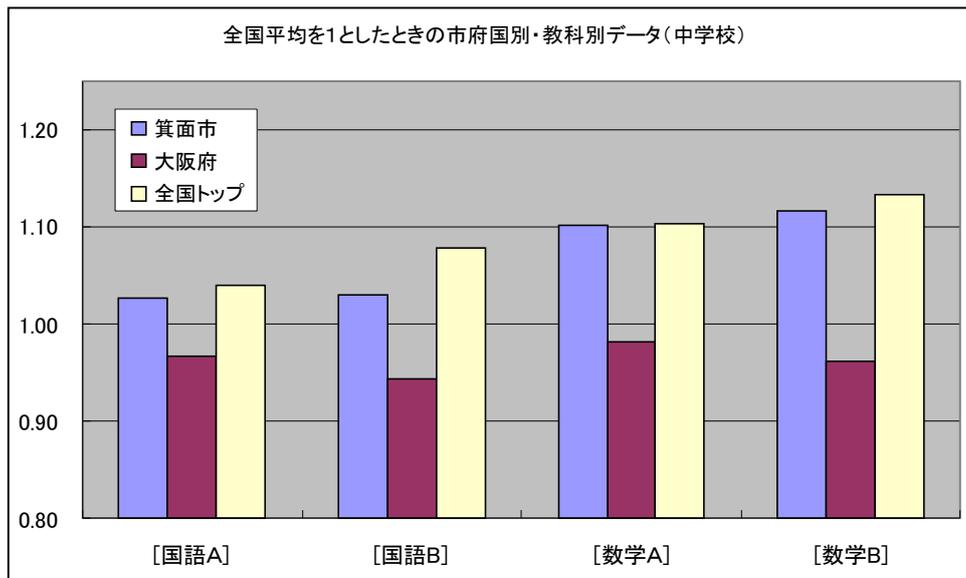
学校名	[国語A]	[国語B]	[数学A]	[数学B]
箕面市	78.0(3)	69.1(6)	69.2(2)	50.0(2)
大阪府	73.5(44)	63.3(42)	61.7(24)	43.1(26)
<b>全国</b>	<b>76.0</b>	<b>67.1</b>	<b>62.8</b>	<b>44.8</b>
都道府県全国トップ	79.1	72.4	69.3	50.8
都道府県名	秋田	秋田	福井	福井

### <全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	[国語A]	[国語B]	[数学A]	[数学B]
箕面市	1.03	1.03	1.10	1.12
大阪府	0.97	0.94	0.98	0.96
都道府県全国トップ	1.04	1.08	1.10	1.13
都道府県名	秋田	秋田	福井	福井
都道府県トップに対する割合	98.6	95.4	99.9	98.4

注1：箕面市欄の( )内は、全国都道府県に置き換えた場合の順位。全国は公立の平均。以下同じ。

注2：問題Aは基本的な知識を、問題Bは知識を活用する力を問うもの。

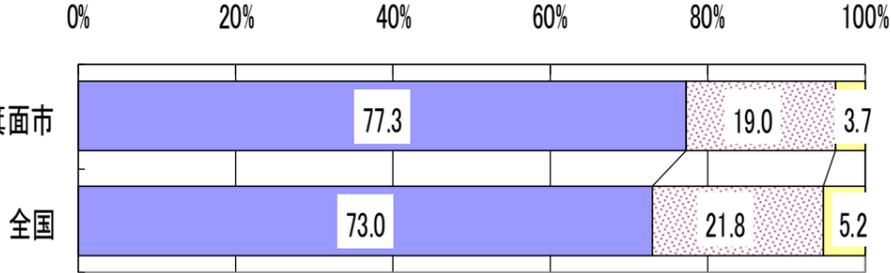


国語A (主に「知識」に関する問題)

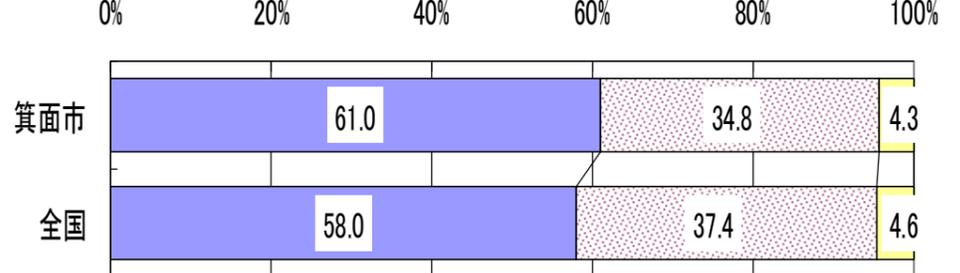
国語B (主に「活用」に関する問題)

正答率

小学校 国語 A問題(知識)

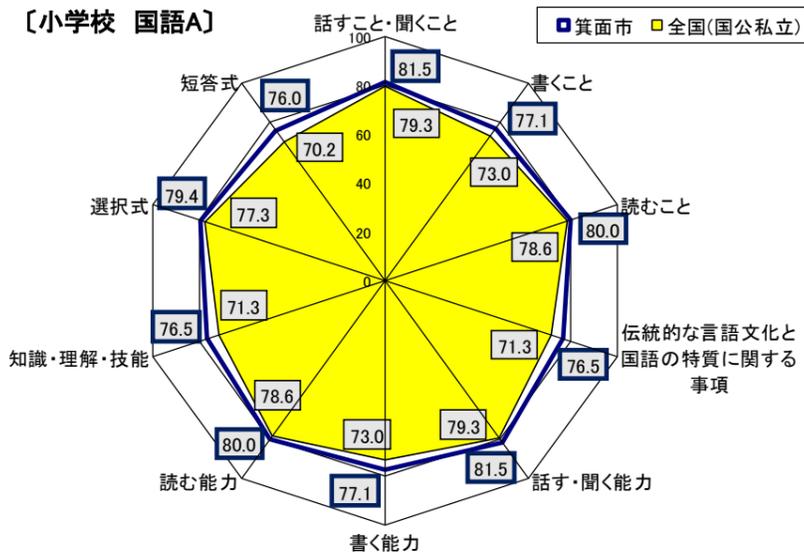


小学校 国語 B問題(活用)

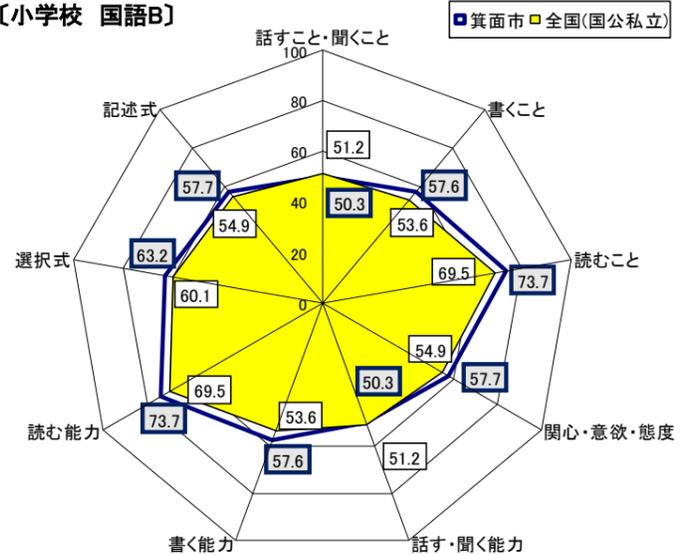


領域・観点  
問題形式別

〔小学校 国語A〕



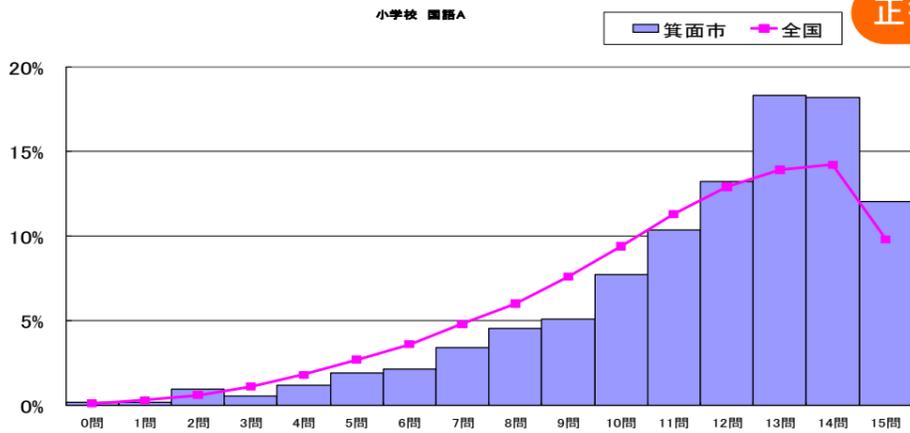
〔小学校 国語B〕



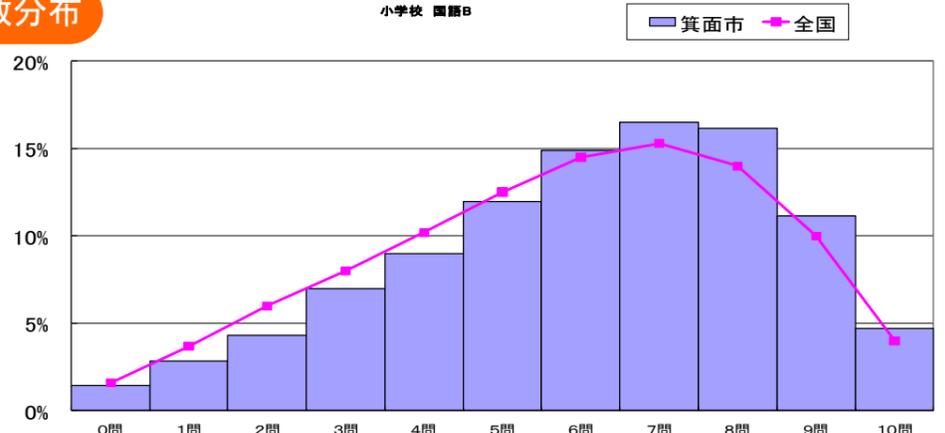
※「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は学習指導要領の領域等による分類です。  
 ※「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」は評価の観点による分類です。

正答数分布

小学校 国語A



小学校 国語B



国語 AB から見えてくること

国語 AB とも問題全体では、全国の平均正答率を上回りました。国語Aは全ての領域・観点・問題形式で、国語Bはほとんどの領域・観点・問題形式で全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

○例年課題があった「書くこと」は、全ての問題で全国の平均正答率を上回りました。

○国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が良好で、特にローマ字の読み書きは全国の平均正答率を大きく上回るとともに、無答率は全国の平均無答率を大きく下回っています。

→ ・「あさって」をローマ字で書く ・ローマ字の「hyaku」を読む

△国語Bの「話すこと・聞くこと」は、全国の平均正答率を下回りました。

△国語Bの「目的に応じて質問したいことを整理する」「質問の意図を捉える」問題が全国の平均正答率を下回り、課題がありました。

→課題があった問題(裏面に記載)

「目的に応じて質問したいことを整理する」「質問の意図を捉える」問題が全国の平均正答率を下回り、課題がありました。

1

山下さんは、食について興味をもち調べたところ、もっと知りたいことが出てきたので、地域のスーパーマーケットの店長にインタビューをすることにしました。次は、山下さんが「事前に準備したインタビューメモ」と「インタビューの一部」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【事前に準備したインタビューメモ】  
「もっと知りたいこと」  
スーパーマーケットの食料品売り場では、お客さんの要望にどのように応えているのだろうか。

（必ず聞くこと）  
外国産の食料品は売れているのか。  
（予想）ねだんが安いから、売れている。  
（必要に応じて聞くこと）  
ねだんが安いものが売れるのか。  
最近売れている食料品は何か。

（食料品売り場について調べたこと）  
スーパーマーケットでは、様々な外国産の食料品がはん売されている。  
地域で生産された農作物などをはん売するのはなぜか。  
（予想）新せんなものをいさようするため。

「地産地消」と書いたせん伝の文字があり、地域で生産された農作物などが売られている。  
地域で生産された農作物などをはん売するのはなぜか。  
（予想）新せんなものをいさようするため。

【インタビューの一部】

山下さん スーパーマーケットでは、様々な外国産の食料品が販売されているようですが、外国産の食料品はよく売れていますか。

店長 よく売れている食料品もあります。

山下さん 売れている食料品は値段が安いのですか。

店長 そうですね。売れている外国産の食料品は値段の安いものも多いですよ。

山下さん 売れている外国産の食料品は安いものも多いということですが、安い食料品がお客さんに選ばれているのですか。

店長 安い食料品も売っていますが、産地に関わらず値段の高い食料品もお客さんには選ばれています。

山下さん お客さんは安いというだけで選んでいるわけではないということですね。では、お客さんは他にどのような理由で食料品を選んでいるのでしょうか。

店長 新せんさや品質など、安心して食べることができるものを選んでおられる方もいらっしゃいます。お客さんは、様々な選び方をされているようです。

山下さん 分かりました。お客さんの選び方には、いろいろあるんですね。今の話とも関係があると思うのですが、店内には地元の農作物などを地元で売っている地産地消のコーナーがありました。地元の農作物もお客さんには選ばれているのですか。

店長 そうです。地元のものはとても新せん、お客さんにも、「安心しておいしく食べられる。」と、大好評です。

山下さん （インタビューが続く）

二 【インタビューの一部】の [ ] では、山下さんは、どのような意図で質問をしていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 店長の発言を受けて、予想が正しいことを確認する質問をしようとしている。
- 2 店長の発言を受けて、予想のちがいを考えて新たな質問をしようとしている。
- 3 店長の発言を受けて、メモの内容に沿った質問をしようとしている。
- 4 店長の発言を受けて、予想を自分の言葉で言いかえて質問をしようとしている。

【正答】  
2

この問題の正答率は49.2%で、ほぼ2人に1人しか正解していなかったんだ。



この問題では、店長の発言を受けて、山下さんがどのような意図で次の質問をしたかを、インタビューメモと比較しながら考えることがポイントでござる！

【ポイント】下の①、②、③の流れで考えて、最も適切な選択肢を選ぶと、正答の2にたどりつくことができます。

① 【何についての質問かを捉える】  
山下さんは1つ前の質問で「売れている外国産の食料品は安いものも多いと・・・」と質問している。  
⇒外国産の食料品についての質問

② 【質問の流れを捉える】  
「お客さんは安いというだけで選んでいるわけではないということですね。」と確認している。  
⇒インタビューメモの予想とちがう

③ 【質問の意図を捉える】  
インタビューメモの〈必要に応じて聞くこと〉とちがう質問をしている。  
⇒予想とのちがいを受けて、新たな質問をしようとしている

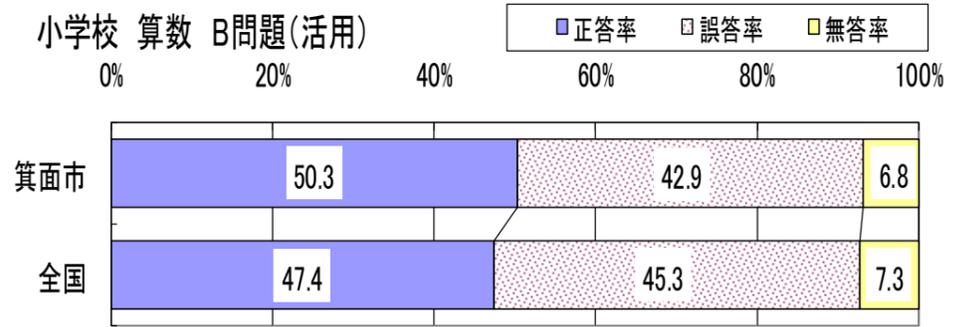
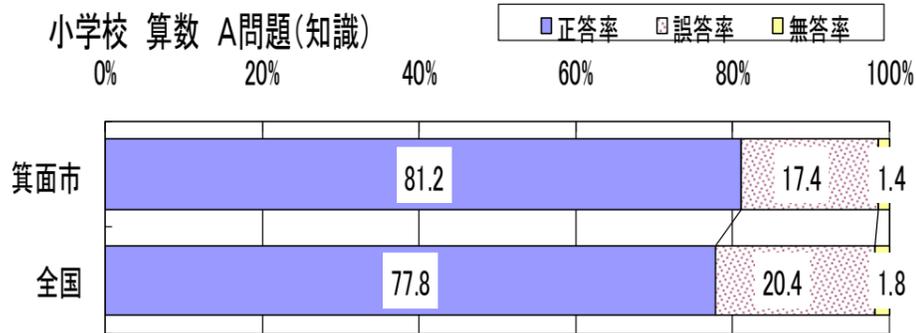
「話すこと・聞くこと」の力をつけるために！

- ・この問題のように、話の流れから質問の意図を捉える力は、日常生活でも大切です。そして、実生活では会話の中ですぐに次の質問を考えたり、相手の意図を読み取ったりすることが求められます。
- ・「話すこと・聞くこと」の力をつけるためには、この問題のインタビューメモのように、自分の聞きたいことや相手が答えるであろうことを考えた上で、「話す・聞く」経験を重ねることが必要です。
- ・家族や地域の人と会話する機会を増やしたり、お店で商品について質問してみたり、「話すこと・聞くこと」の力を伸ばすチャンスは生活の様々な場面にあります。

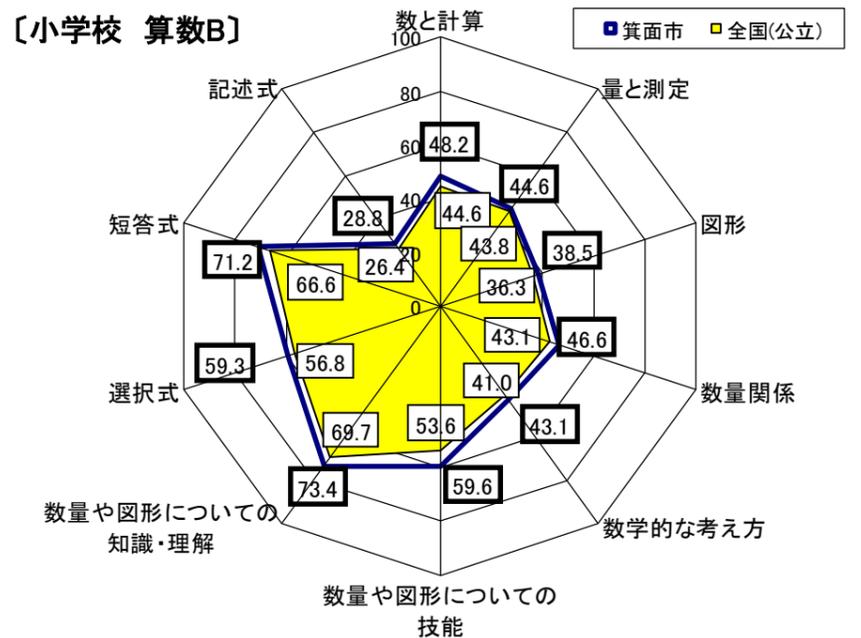
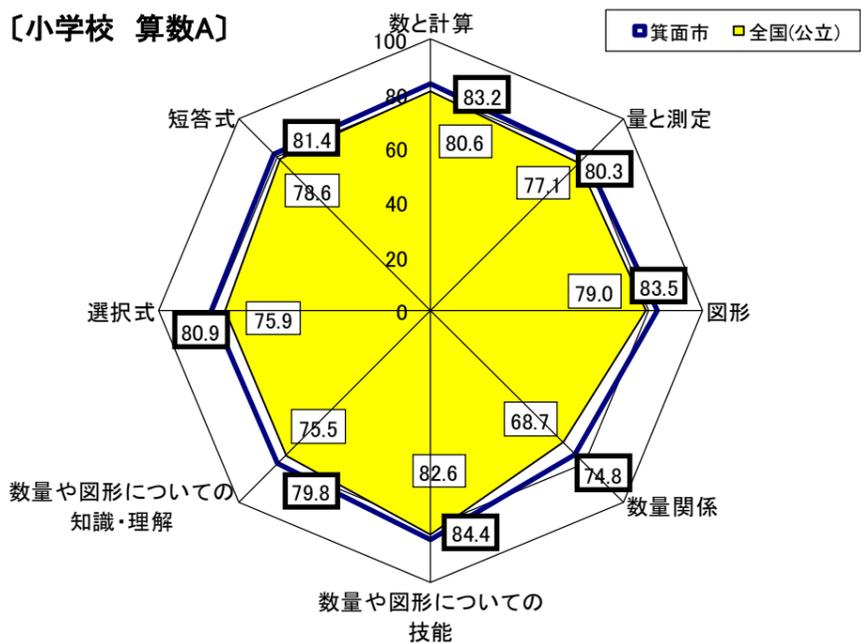
算数A (主に「知識」に関する問題)

算数B (主に「活用」に関する問題)

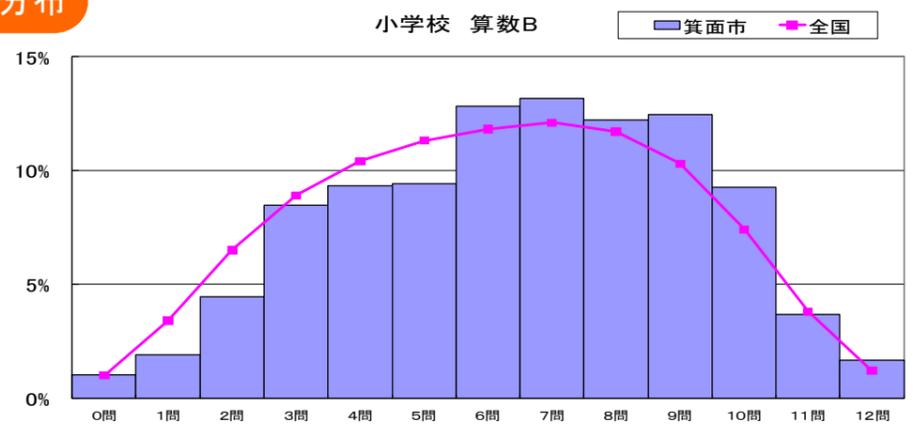
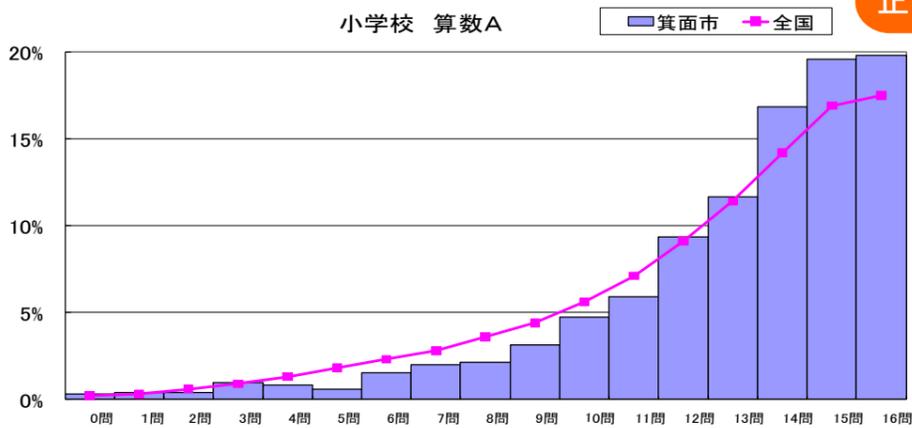
正答率



領域・観点  
問題形式別



正答数分布



算数 AB から見えてくること

すべての領域において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

【算数A】ほぼすべての領域・観点・問題形式で全国の平均正答率を上回りました。

△「除数」についての知識・理解を問う設問について全国の平均正答率をわずかに下回りました。

○(数量関係)定員と乗っている人数の割合を図に表す問題では、基準量と比較量を理解し、それぞれの数値を書くことができおり、全国の平均正答率を大きく上回りました。

【算数B】ほぼすべての領域・観点・問題形式で全国の平均正答率を上回りました。

△「図形」について、全国の平均正答率をわずかに下回りました。

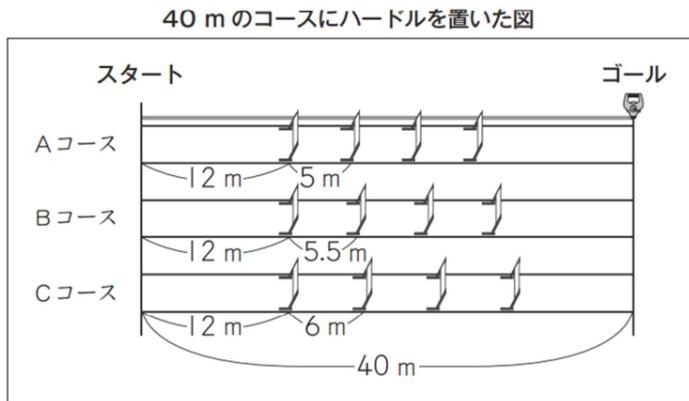
△(図形)「示された四角形を6つ並べてできる図形を選ぶ」では、最終的にできる正多角形の中心角や1つの角の大きさから、全体の形を導くための思考力について課題が見られ、全国の平均正答率をわずかに下回りました。

△(数と計算)「示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述する」では、全国の平均正答率をやや上回るものの、17.9%と低い正答率にとどまりました。(裏面に記載)

示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述することに全国と同じように課題が見られました。

2

- ① 体育の時間に、40 m ハードル走を行います。  
 次の図のように、ハードルとハードルの間がそれぞれ、5 m、5.5 m、6 m になるようにハードルを4台ずつ置いて、40 m のコースにA、B、Cの3つのコースをつくります。



(中略)

- ② 次に、40 m 走のタイムをもとに、40 m ハードル走の目標のタイムを決めます。

40 m ハードル走の目標のタイムは、次の式で求めることにします。

40 m ハードル走の目標のタイムを求める式

$$40 \text{ m 走のタイム} + 0.4 \text{ (秒)} \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$$

(※) この式で波線 (~~~~) の部分は、40 m ハードル走のときに増える分の時間ですね。

まなみさんは、目標のタイムを達成することができました。そして、そのことを、先生に伝えました。

目標のタイムを達成することができたなら、40 m ハードル走の目標のタイムを求める式を作り直しましょう。  
 40 m 走のタイムやハードルの数は変えずに、式の中の0.4を、例えば0.3に変えるとよいと思います。

③

もとの式	$40 \text{ m 走のタイム} + 0.4 \text{ (秒)} \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$
	↓
作り直した式	$40 \text{ m 走のタイム} + 0.3 \text{ (秒)} \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$

0.4 のところを0.3に変えるのですね。  
 式の中の0.4や0.3は、どのような時間を表しているのかな。

- (3) 式の中の  $0.4$  や  $0.3$  は、どのような時間を表している数だと考えられますか。言葉や数を使って書きましょう。

(正答例)  
 0.4 や 0.3 は、ハードル1台あたりに増える時間であると考えられます。

実際の体育の授業でも使われている考え方をごさる。



(ポイント)

この設問に解答するためには、式の数値の表す意味を的確に捉え、説明する力が求められます。

(※) 部分のまなみさんの言葉から、  
 $0.4 \text{ 秒} \times \text{ハードルの数} = \text{ハードル走の時に増える時間}$   
 であることは問題中に示されています。

ここから、ハードルを1台越えるごとに、0.4秒ずつ余分に時間がかかるということを読み取ることができます。

このことをもとに、かけ算の基本である「一あたり量」×「いくつ分」を考えると、

一あたり量は、ハードル1台あたりに増える時間  
 いくつ分は、ハードルの台数

ということが分かります。

ハードルを越える技術が上達すれば、短い時間でハードルを越えられるので、0.4秒を0.3秒に修正して目標を再設定しています。

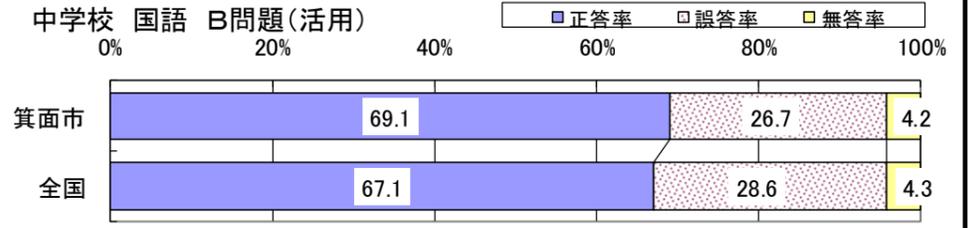
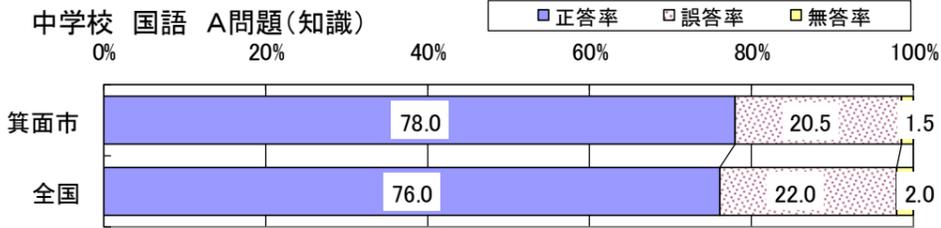
### 「説明する」力をつけるために！

- ・言葉や数、記号を用いて記述できるかどうかをみる問題は、全国学力・学習状況調査や箕面子どもステップアップ調査等の各調査で毎回課題となっています。
- ・算数の学習を通して身に付ける力は、計算で答えを出す力だけではありません。それまでの学習を通して得られた見方・考え方、図、表、式、文章などを使って問題を解決した過程と結論を、分かりやすく相手（先生や友だち）に伝える力をつけることが大切です。
- ・普段の授業から、結論に至った考えの過程をノートに書いていくことが大事になります。
- ・式の中のそれぞれの数値や、上記の問題②中の~~~~~部のように、式を構成する小さなまとまりにどのような意味があるのか、考えながら説明してみましょう。

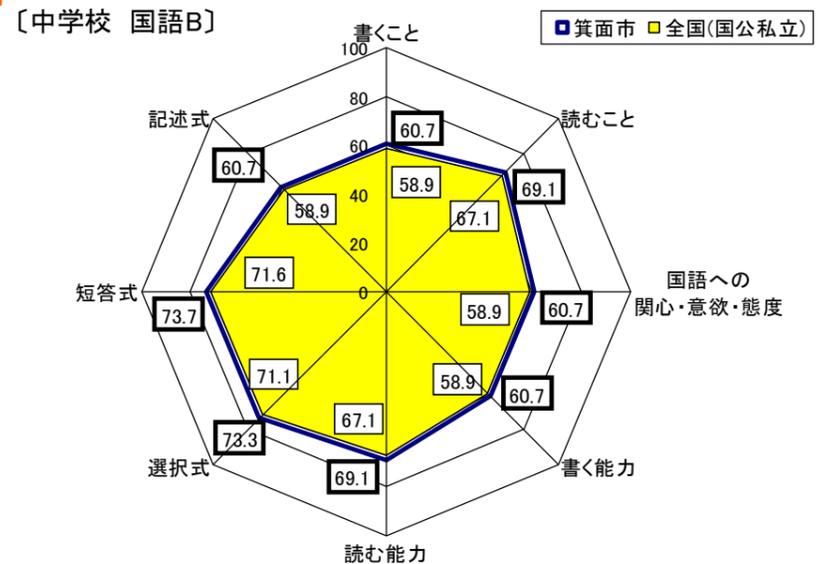
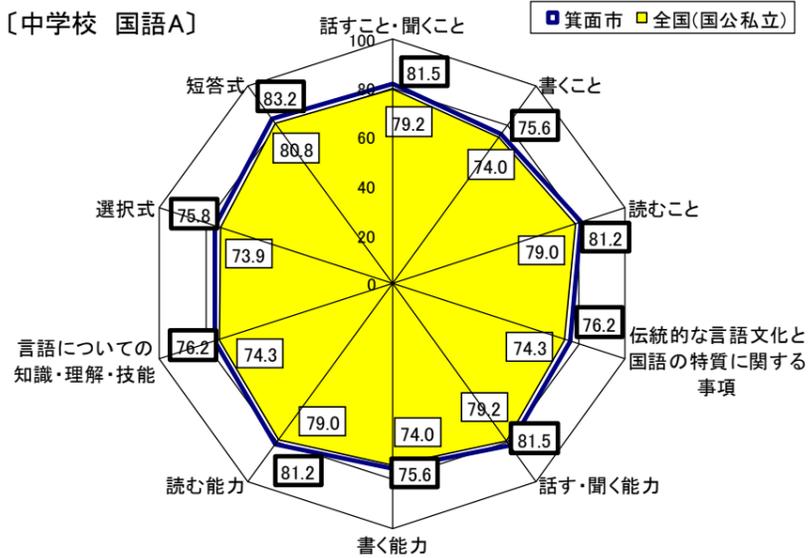
国語A (主に「知識」に関する問題)

国語B (主に「活用」に関する問題)

正答率

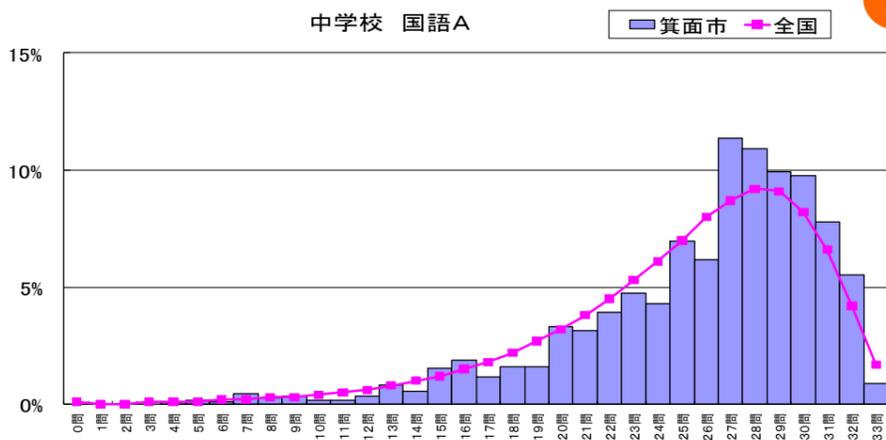


領域・観点  
問題形式別



※「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は学習指導要領の領域等による分類です。  
 ※「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」は評価の観点による分類です。

正答数分布



国語 AB から見えてくること

国語 AB とも問題全体では、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は良好です。

○国語 A の「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」問題は特に良好で、全国の平均正答率を大きく上回っています。

△国語 A の漢字・語句に関する以下の問題で、全国の平均正答率と同じか、やや下回るなど、課題が見られました。

→「封筒」の読み ・副詞「もちろん」を文脈から選択する ・「白羽の矢が(立つ)」の空欄補充

△国語 A の、「文字の形や大きさ、配列に注意して書く」問題は、全国の平均正答率を下回りました。

△国語 B の「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く」問題が全国の平均正答率を下回り、課題がありました。

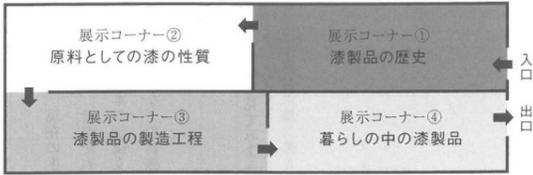
→課題があった問題 (裏面に記載)

「伝統文化」というと遠い存在のように感じられますが、実は今の暮らしの様々なところに息づいています。  
「暮らしの中の伝統文化展」の第1期は、「うるしの世界」を取り上げます。私たちの暮らしの中にある漆のよさを実感してみませんか。

うるしの世界

おわんや重箱などに代表される漆製品は、優美だけでなく、丈夫で長持ちする実用性の高さも兼ね備えており、私たちの暮らしの中で育まれてきたものです。

展示内容（1階展示室）



関連イベント

～漆製品を使ってみよう～

漆の器とスプーンでアイスクリームを味わいます。また、使用後の手入れの仕方も体験できます。漆の器の美しさや手触りのよさなどを感じてみませんか。

日時：開催期間中の土曜日  
午後3時～午後4時  
場所：1階特別室  
定員：20名（無料・当日受付）

～職人の技を見てみよう～

この道30年の職人による漆塗りの実演を見ることが出来ます。交流する時間もありますので、伝統を受け継ぐ職人としての思いなどを直接聞いてみませんか。

日時：開催期間中の日曜日  
午前10時～午前11時  
場所：1階ホール  
定員：50名（無料・当日受付）

暮らしの中の  
伝統文化展



2016年 5月21日(土) - 6月19日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時  
休館日：月曜日  
入館料：一般300円 大学生・高校生200円  
中学生以下無料

第2期：「和紙の世界」6月25日(土)～7月24日(日)  
第3期：「織物の世界」7月30日(土)～8月28日(日)

草木市立博物館

〒900-9859 草木市南町7  
電話 000-123-xxxx  
http://www.hakubutsukan.xx.jp

【博物館の暮らし(裏)】

【博物館の暮らし(表)】

文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことについて課題が見られました。

2 三 【博物館の暮らし(表)】と【博物館の暮らし(裏)】には、それぞれどのような表現の工夫がありますか。また、それらにはどのような効果があると思いますか。あなたの考えを、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 「表は、∴。裏は、∴。」という形で書くこと。

条件2 表現の工夫と、その効果を具体的に書くこと。

条件3 四十字以上、八十字以内で書くこと。

イラストや図を入れたり、字を大きくしたりなどの工夫があるでござるな。



(正答例)

表は、器のイラストの中に文字が書いてあり、タイトル印象が強い。裏は、展示内容や関連イベントという項目が設けてあり、伝統文化展の第一期の全体像がよく分かる。(79字)

【ポイント】

①条件1と条件2から、「表」と「裏」それぞれについて、「工夫」と「効果」を書くという解答の形を理解する。

「表は○○(工夫)があり、○○(効果)がある。」  
「裏は、○○(工夫)があり、○○(効果)がある。」

②それぞれの「工夫」を読み取り、「効果」を考える。

「工夫」表…イラスト、字の大きさ、フォント等  
裏…呼びかけ、枠、図、イベント説明等  
「効果」印象づける、興味を引く、わかりやすくする、要約する、補足する等

③字数の制限に合わせて文章を書く。

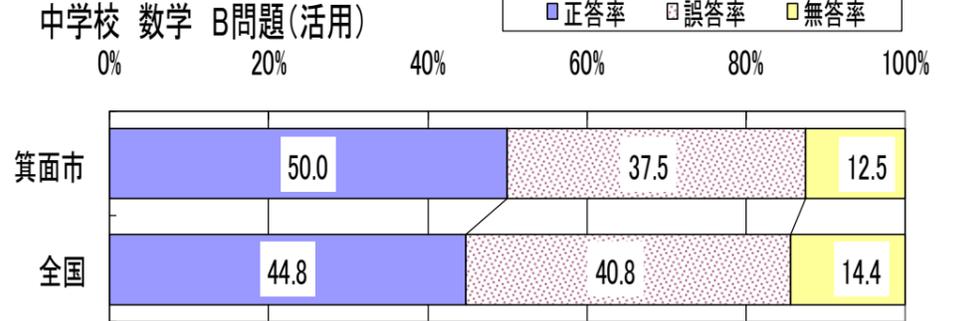
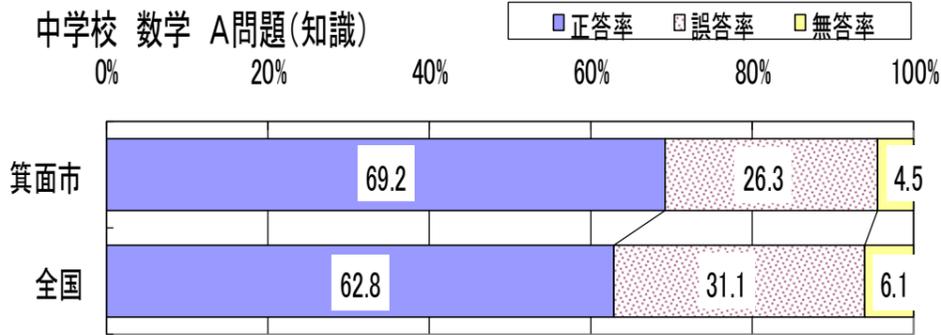
「根拠を明確にして書く力」をつけるために！

- 条件に沿って書く問題は、これまでの全国学力・学習状況調査や箕面子どもステップアップ調査等の各調査で、毎回課題となっています。
- この問題では、「表現の工夫とその効果を具体的に書く」という条件に対して、「工夫」を暮らしから読み取り、その「効果」を考えて、文章で書く力が求められています。
- 資料を活用する問題では、「資料に○○と書いていることから、○○と言える。」のように、考えの根拠が資料のどこにあるのかを明確に示すことによって、説得力のある文章を書くことができます。
- 身近にある多くの印刷物などには、さまざまな表現上の工夫があり、大きな効果を上げています。そうした工夫について、「なぜこのような書き方をしているのか」を、日頃から意識することも表現力の育成につながります。

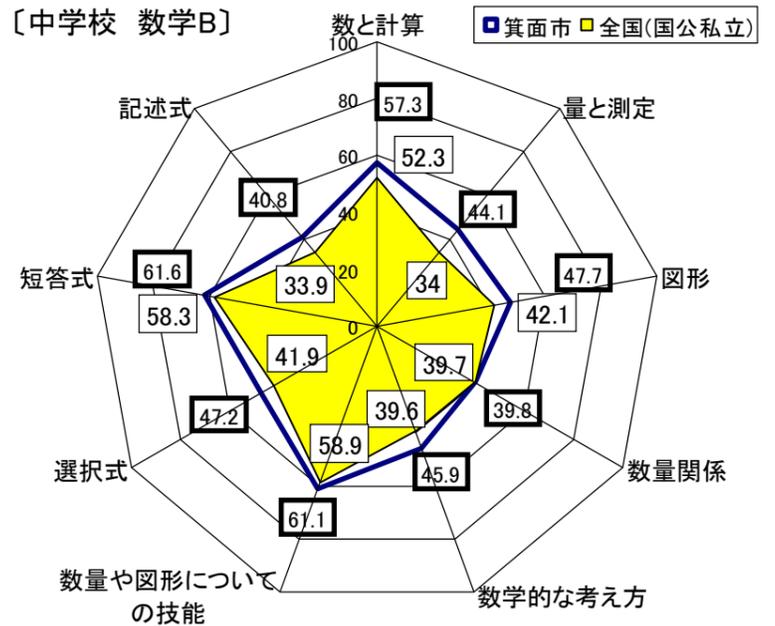
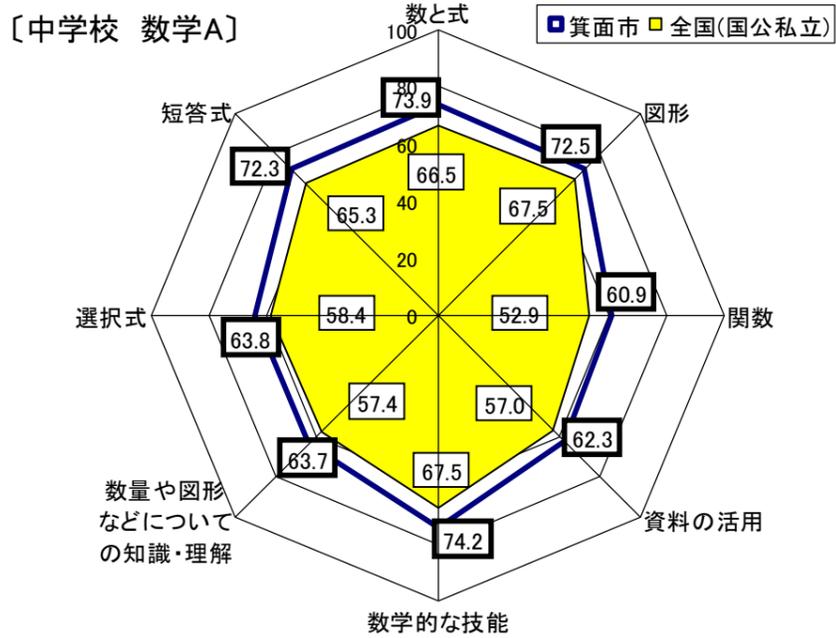
数学A (主に「知識」に関する問題)

数学B (主に「活用」に関する問題)

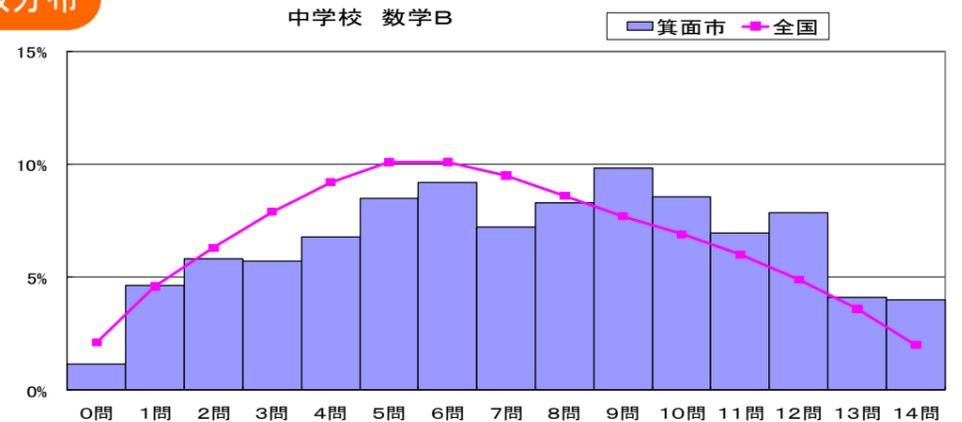
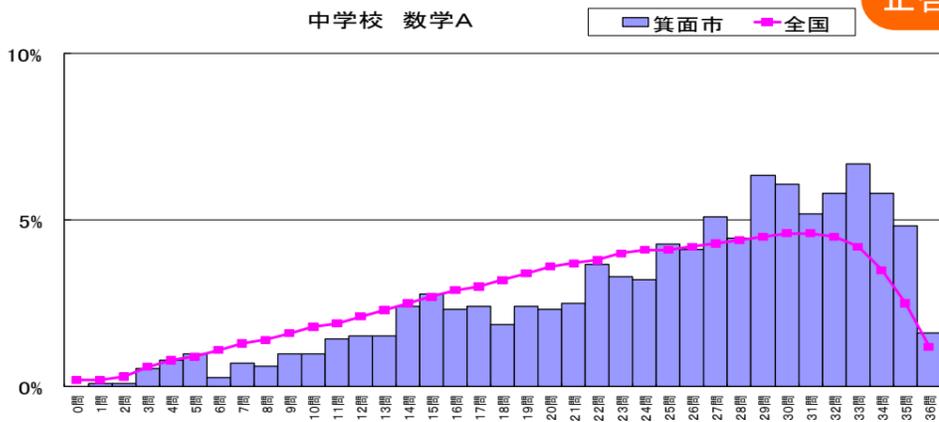
正答率



領域・観点  
問題形式別



正答数分布



数学 AB から見えてくること

すべての領域において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

【数学A】ほぼすべての領域・観点・問題形式で全国の平均正答率を上回りましたが、「図形」の垂線の作図について全国の平均正答率を下回りました。

○(関数)「一次関数のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求めることができる。」では、グラフを用いて変域を視覚的にとらえることができおり、全国の平均正答率をはるかに上回りました。

△(図形)「与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ。」では、作図の方法で得られた点や線分の特徴を、図形の性質と関連づけて理解することについて課題が見られ、全国の平均正答率をやや下回りました。

【数学B】ほぼすべての領域・観点・問題形式で全国の平均正答率を上回りましたが、「資料の活用」について、全国の平均正答率を下回りました。

△(関数)「与えられた情報を基に、数学的な結果を事象に即して解釈したり、問題解決の方法を数学的に説明したりすること」に全国と同じように課題が見られました。(裏面に記載)

△(資料の活用)「25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く。」では、相対度数が全体に対する部分の割合を示す値であることへの理解が十分でないところに課題が見られ、全国の平均正答率をやや下回りました。

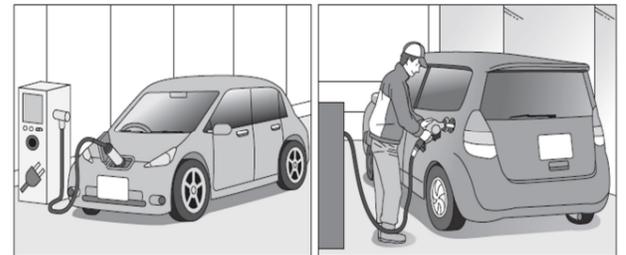
与えられた情報を基に、数学的な結果を事象に即して解釈したり、問題解決の方法を数学的に説明したりすることに全国と同じように課題が見られました。

3 航平さんの家では、自動車の購入を検討しています。購入を検討しているA車(電気自動車)とB車(ガソリン車)にかかる費用について、航平さんの家での自動車の使用状況を踏まえると、次のようになります。

航平さんは、A車とB車について、それぞれの車の使用年数に応じた総費用を比べてみようと思いました。そこで、1年間あたりの充電代やガソリン代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めました。

$$(\text{総費用}) = (\text{車両価格}) + \left( \begin{array}{l} \text{1年間あたりの} \\ \text{充電代・ガソリン代} \end{array} \right) \times (\text{使用年数})$$

	A車(電気自動車)	B車(ガソリン車)
車両価格	280万円	180万円
1年間あたりの充電代・ガソリン代	4万円(充電代)	16万円(ガソリン代)



(1) A車を購入して10年間使用するときの総費用を求めなさい。

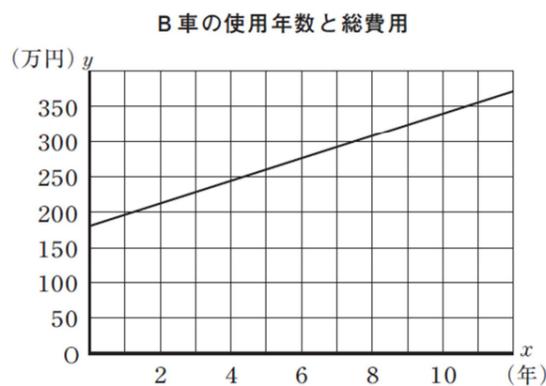
$$\begin{array}{l} (\text{式}) \quad 280 + 4 \times 10 = 320 \\ (\text{正答}) \quad 320 \text{万円} \end{array}$$

【ポイント】

左上の問題文の式に  
 ・(車両価格)・・・280万円  
 ・(1年間あたりの充電代)・・・4万円  
 ・(使用年数)・・・10年  
 を代入します。

(2) B車を購入してx年間使用するときの総費用をy万円とします。

このxとyの関係を、航平さんは次のような一次関数のグラフに表しました。



このグラフの傾きは、B車についての何を表していますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 総費用
- イ 車両価格
- エ 1年間あたりのガソリン代
- エ 使用年数

(正答) ウ

【ポイント】

グラフの傾きは、一次関数の変化の割合を表しています。xが1増加したときのyの増加量が変化の割合です。  
 よって、この問題では1年間にどれだけのガソリン代が必要かを表しています。

(3) A車とB車の総費用が等しくなるおおよその使用年数を考えます。

下のア、イのどちらかを選び、それを用いてA車とB車の総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらかを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの車の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの車の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

(正答例)

【アを選択】

A車とB車について、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて求める。

$$\begin{cases} y = 4x + 280 \\ y = 16x + 180 \end{cases}$$

【イを選択】

A車とB車について、使用年数と総費用の関係を一次関数のグラフに表し、その交点のx座標を読み取る。

【ポイント】

この問題では、総費用が等しいことからyの値が等しいことに着目します。  
 そこで、  
 ☆式を用いれば、正確な値が求められます。  
 ☆グラフを用いれば、総費用が等しくなる、おおよその使用年数が一目でわかります。

表やグラフに注目すれば、わかりやすくなるぞござる!



### 「関数」を得意分野にするために!

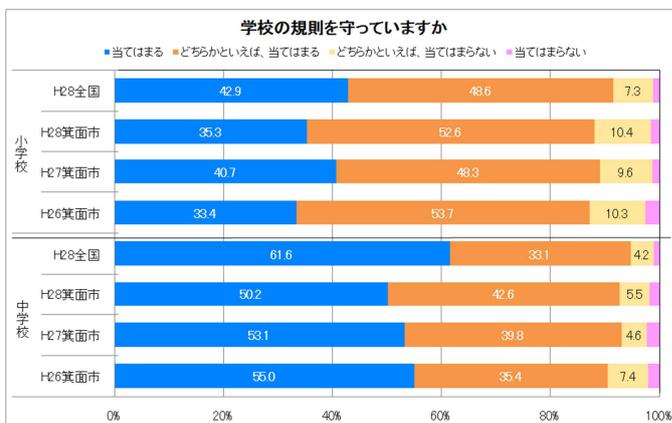
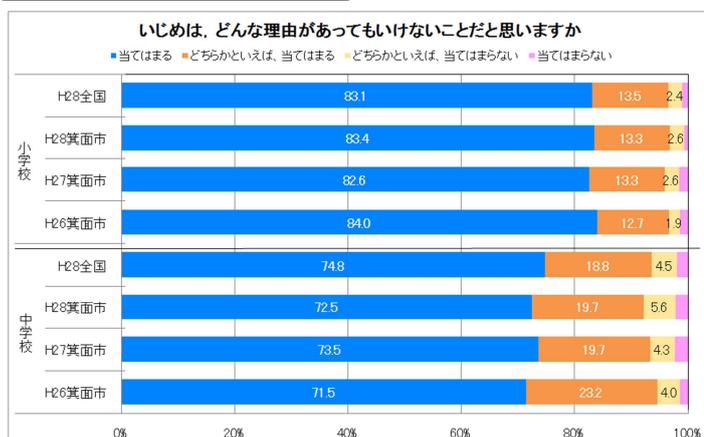
- ・関数全般において、問題を考えるときには、ともなって変わる2つの数量に着目し、表・式・グラフで表すことから始めてみましょう。そうすることで、関係性がよりわかりやすくなり理解が深まります。
- ・問題によって、表・式・グラフのどれを使うのが有効かを考えましょう。問題をスムーズに解く近道となります。
- ・関数は身近にたくさんあります。ある事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べて、ともなって変わる数量の関係を見つけてみましょう。

# 少しずつ力をつけてきている箕面の子どもたち

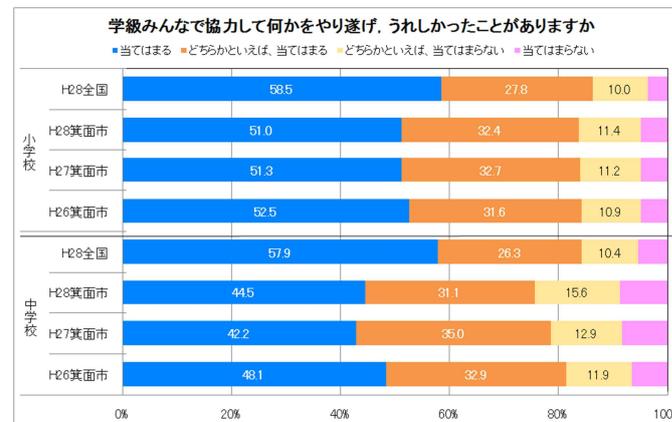
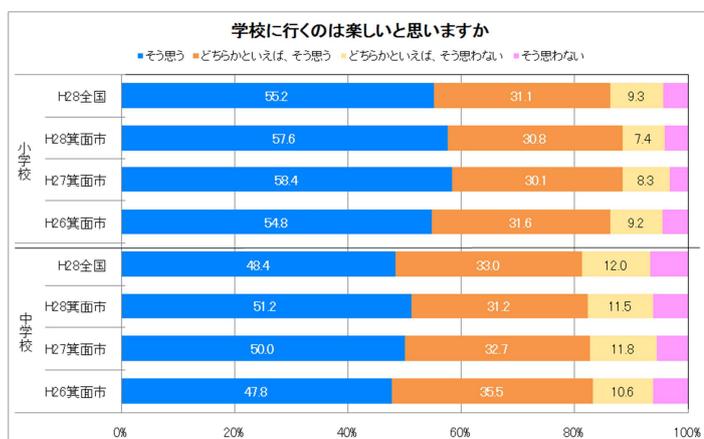
学習状況調査はアンケート形式で児童生徒からの回答を求めるものです。学力状況調査の結果と関連がある学習状況の質問項目については、多くの質問項目において良好な結果でした。肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国と比べて低い項目もいくつかありますが、多くの質問項目について、一昨年度、昨年度より肯定的な回答の割合が高くなってきています。特に中学校の授業改善を示す数値が、良好な結果を示しています。調査の対象となる子どもたちは年度ごとに違いますが、各校で課題を明確にして、取組を進めている成果が、少しずつ見られます。以下、今回の調査結果から見える箕面の子どもたちの様子について、いくつかの視点に絞って考察しました。



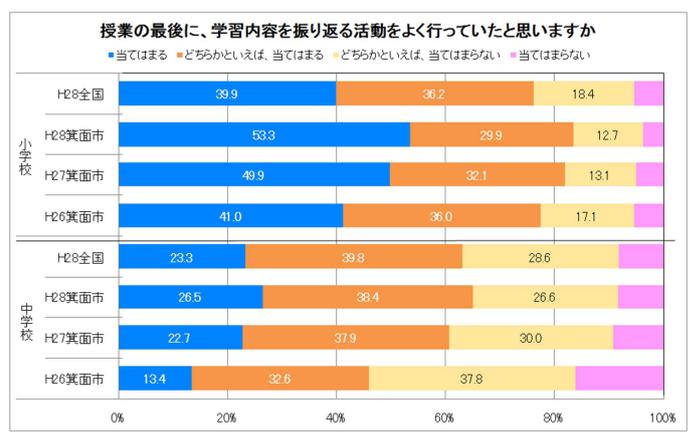
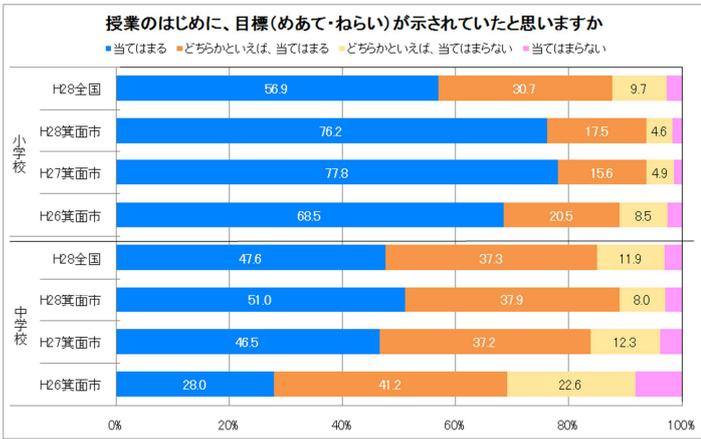
## 学校生活の様子



「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定的な回答をしている児童生徒は、小学校で、昨年度の割合と今年度の全国の割合を上回りました。また、「学校の規則を守っていますか」についても肯定的な回答をする児童生徒の割合が、昨年度より少し下回りました。今後、いじめや学校の規則について子どもたちが主体的に考える取組を進めていきます。

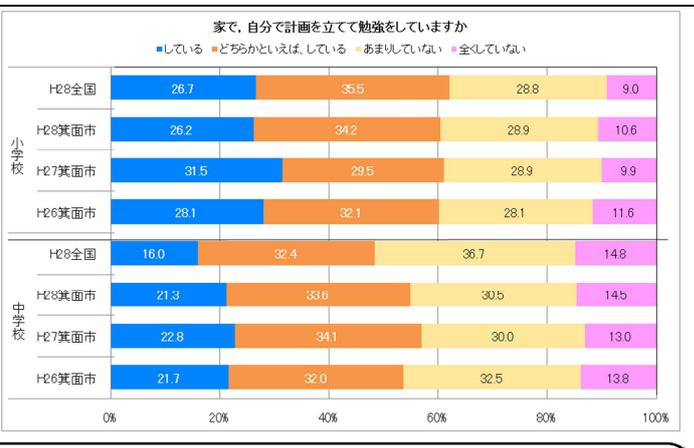
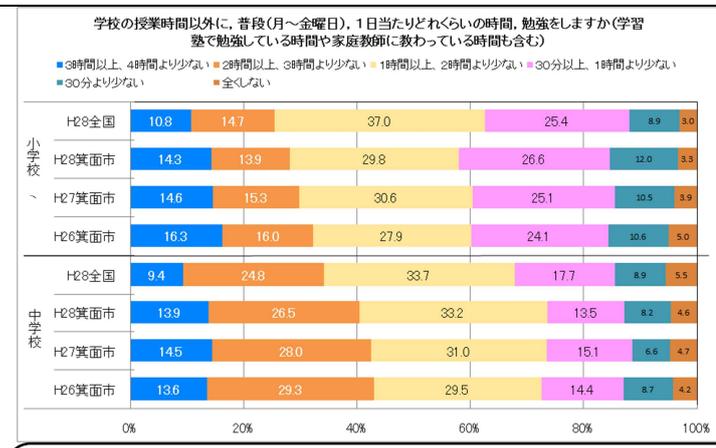


「学校に行くのは楽しい」と思っている児童生徒の割合は、例年全国を上回っていますが、楽しいとは思っていない児童生徒が12~18%います。「学級みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことがありますか」について肯定的な回答をしている児童生徒の割合は全国より低いです。子どもたちが、自分たちで目標を定め、自主的・協力的に活動を進める機会をもつことで、喜びや楽しさを味わわせ、子どもたちにとって学校が自分の力を試すことができ、安心安全な場所となるような取組を進めていきます。

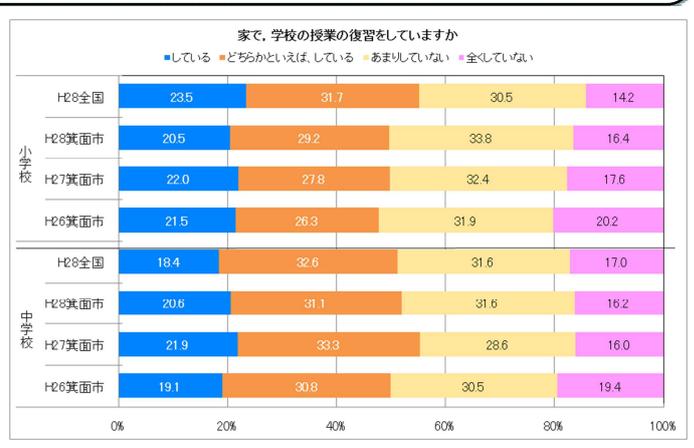
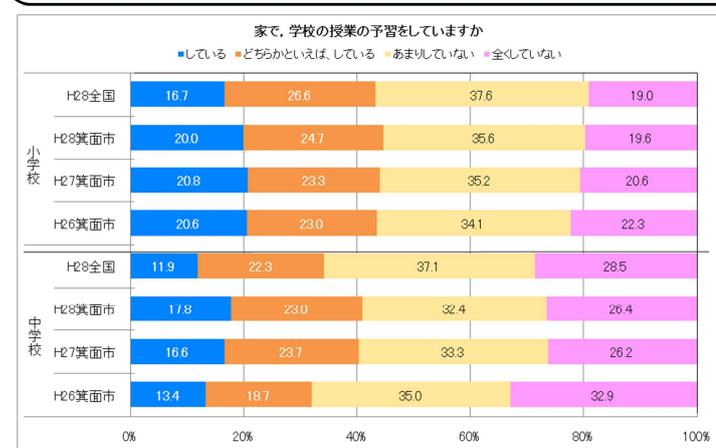


授業の中で「めあてが示されている」「振り返る」活動は「箕面の授業の基本」として大切にしている学習活動です。これらの項目について、「当てはまる」など肯定的に回答する児童生徒の割合が小中学校とも、昨年より増え、全国を上回っています。自分の事として学習に取り組み、自分で学習できる力をさらに伸ばすために、活動内容の充実をはかるとともに、小中学校では、「振り返る」活動をさらに定着させていきます。

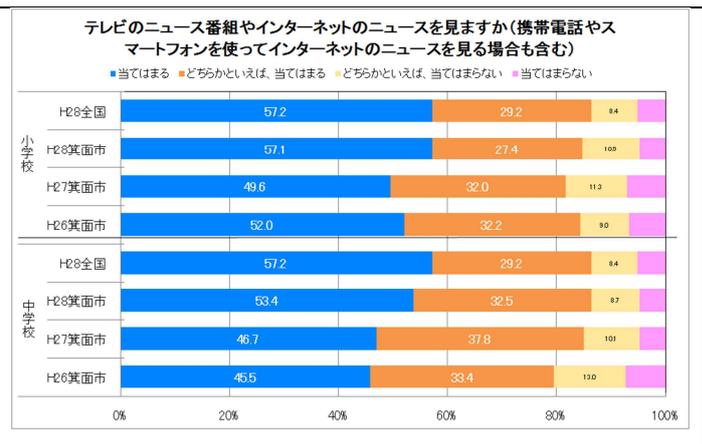
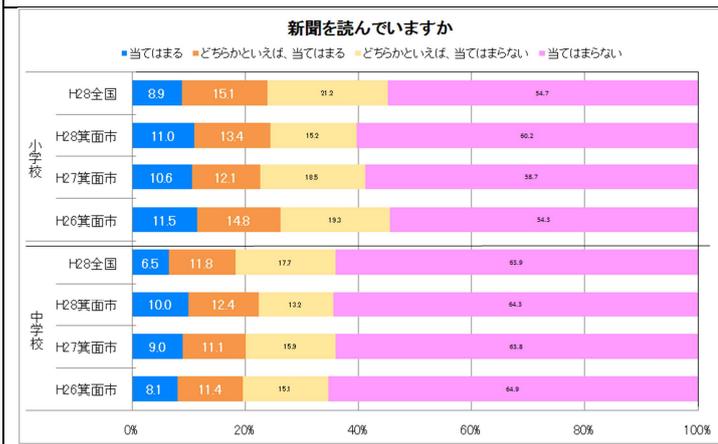
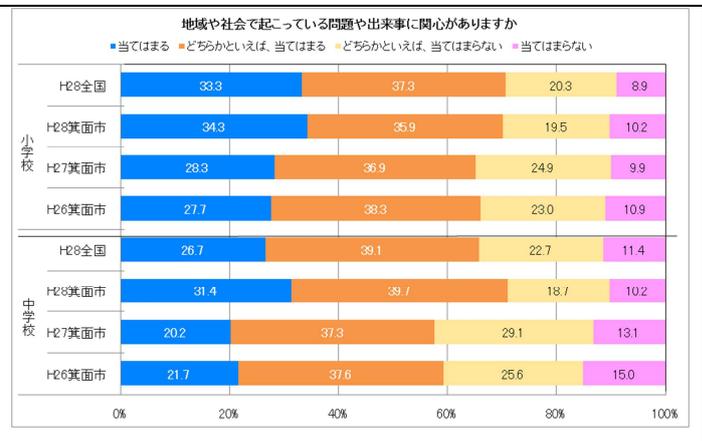
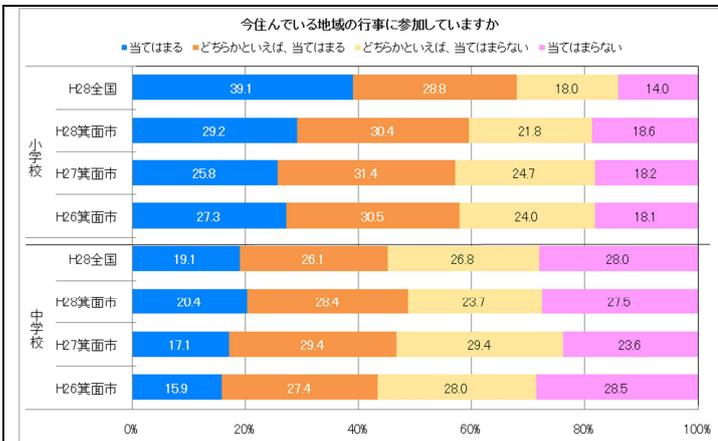
## 家庭での学習



自分で計画を立てて勉強している子どもの割合は、中学校が全国と比べて高い傾向にあります。また、学校の授業以外の勉強時間が2時間以上の割合が、全国と比べて高い一方、小学校では年々減少している傾向が見られます。



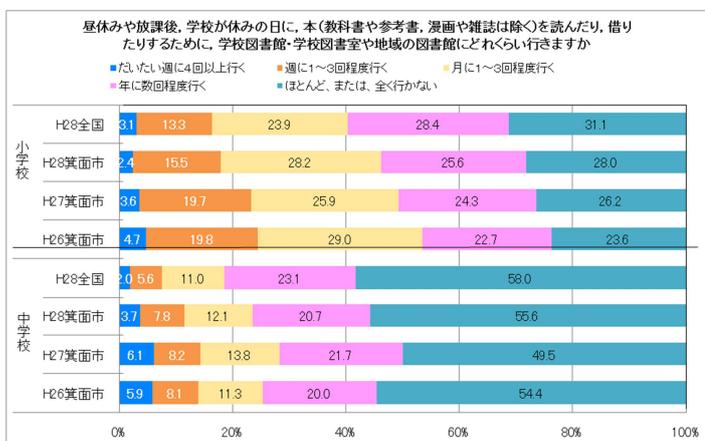
家で学校の授業の予習をする子の割合は年々増加している。家庭学習の習慣をつけようとしてきた成果が徐々に表れているものと考えます。家庭での学習と言えば、宿題等で繰り返しのドリルなど出された課題をこなすことも少なくないと思いますが、授業と家庭学習をつなげる予習の課題や、学校での学習を活かした「一人学習」など自分の今の状況をとらえ、自分で目標を決め、内容や時間等計画的に取り組めるようにすることを大切にしていきたいです。



地域や社会の出来事に関心を持つ児童生徒の割合は、小中学校とも7割程度あり、特に中学校では全国を上回っています。また、年々児童生徒の中で関心が高まっています。一方、地域の行事に参加している児童生徒の割合は、小学校では6割程度、中学校で5割程度で全国を下回っています。しかし、行事へ参加しようとする箕面市の児童生徒の割合が年々、増加しています。また、情報の入手方法は、新聞よりテレビやインターネットを活用している児童生徒が多く、小中学校ともに年々、増加しています。

今後さらに地域の行事への参加を促し、自分の住む地域は自分たちで創るという気持ちを育てていくと同時に、インターネット等の利活用については今後一層の子どもたちの理解を図っていきます。

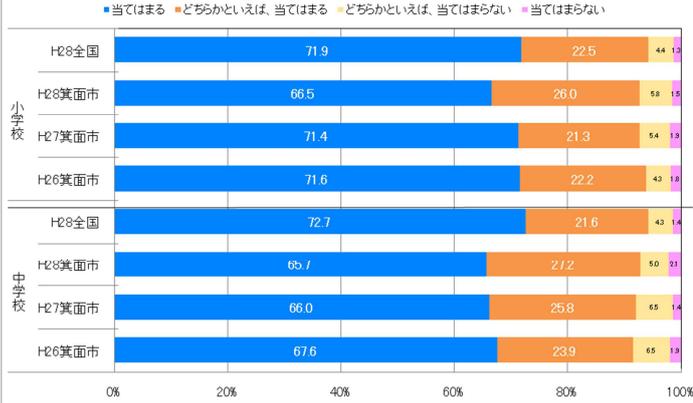
## 図書館利用について



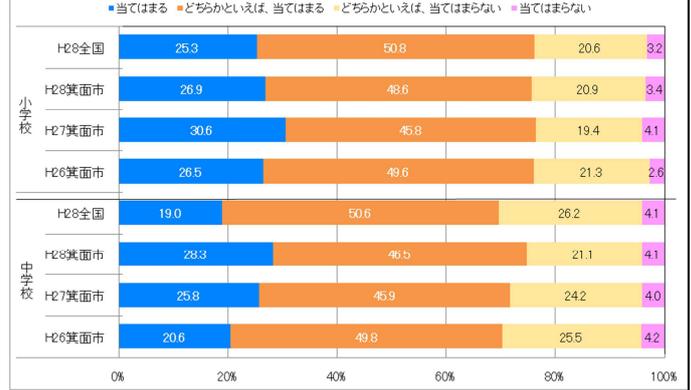
学校や地域の図書館に、月に1~3回以上行くと答えている子どもの割合は、小中学校いずれにおいても全国より高くなっています。一方、図書館に行かない割合が増えているのも課題です。月曜日から金曜日まで、学校図書館に司書のいる箕面の学校では、これまでも子どもたちの図書館への関心を高め、本に親しむ習慣をつけるための様々な取組が行われてきました。今後もじっくり本に向かう子どもたちの姿が見られるように家庭とも連携を図り、取り組みを進めていきます。

# 自分自身について

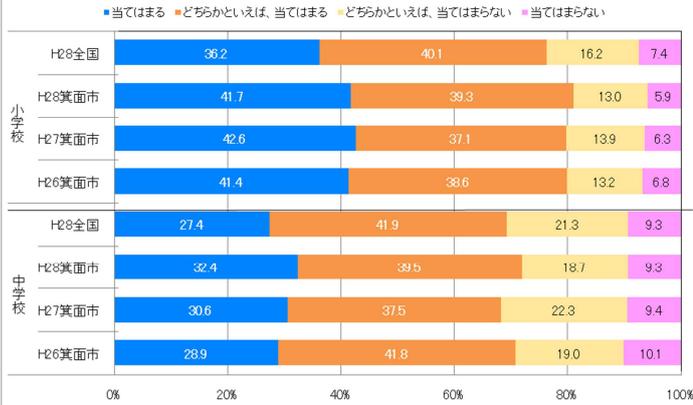
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



自分には、よいところがあると思いますか

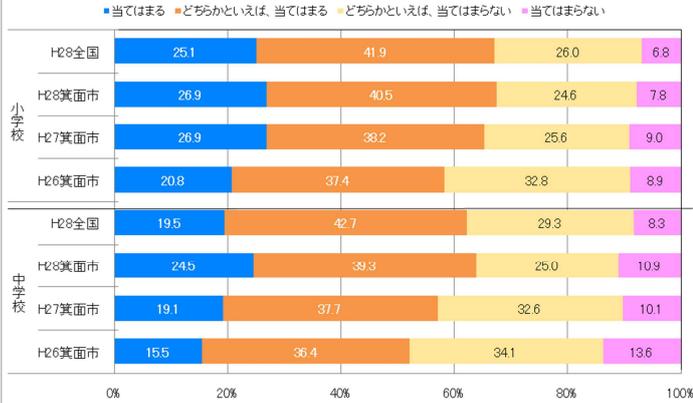


「最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」については、小中学校とも全国より少し低いです。一方、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」「自分にはよいところがある」と思う子の割合は、特に中学校で少しずつ高くなり、全国を上回っています。

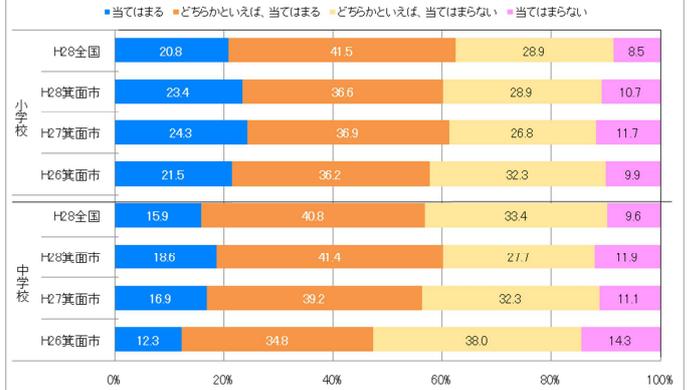
安心して取り組める環境の中で、自ら挑戦し結果を出すことで自信をつけていると考えられます。様々なことに意欲的に挑戦し続け、持てる力を精一杯発揮してほしいと思います。

## <国語>

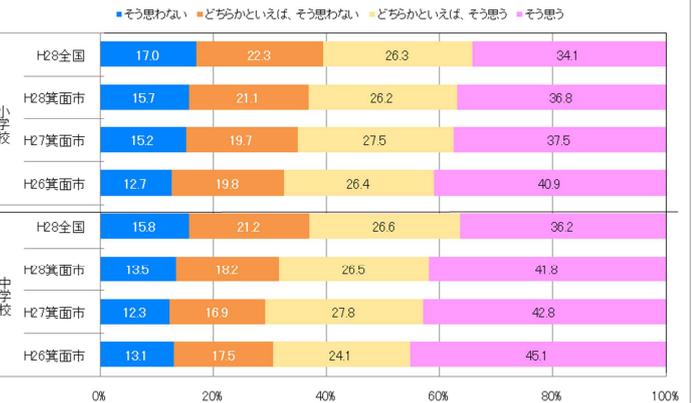
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか



400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



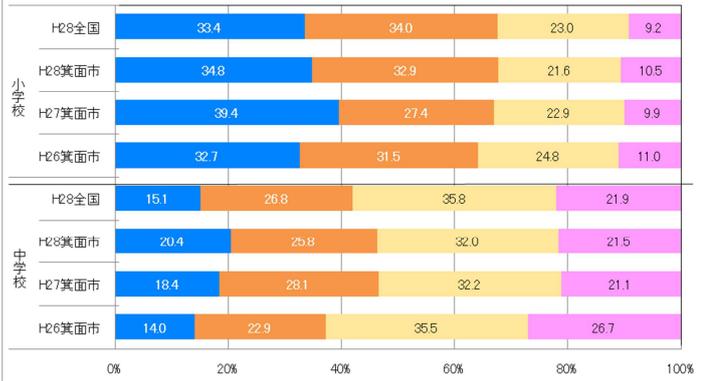
目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする子どもたちの割合が年々増えています。また、発表するとき、伝えるように話の組み立てを工夫している子どもの割合も特に中学校で年々上がっています。

一方、400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思っている子どもたちは、年々減っていますが、箕面市では全国に比べて高い割合を示しています。

## <算数・数学>

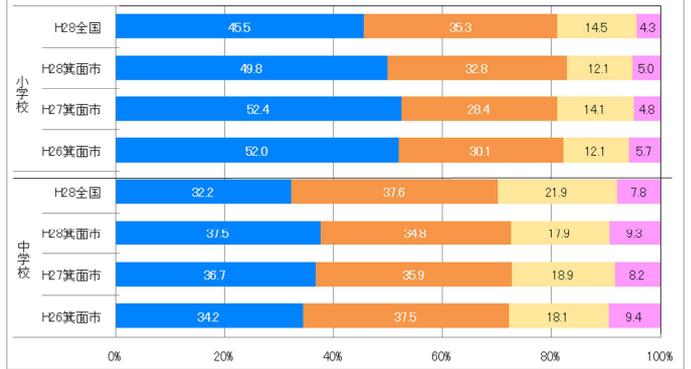
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



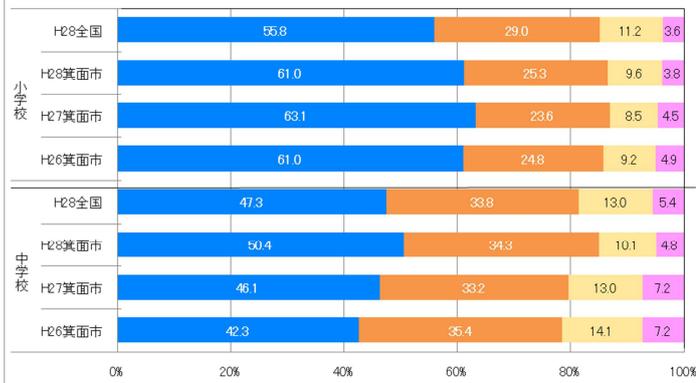
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



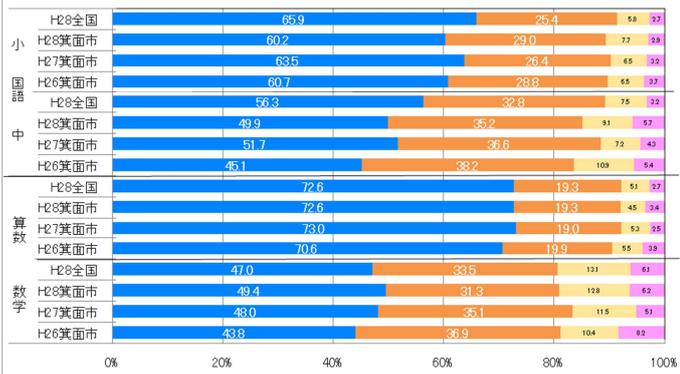
小中学校では、授業で学習したことを普段の生活の中での活用、公式やきまりの根拠の理解などが高まっています。

授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く割合が、児童生徒とも全国より高く、特に中学校では年々高まっています。自分の考え方がわかるようにノートに書くことで、より理解が深まり、真に活用できるものになっていきます。

## <授業・学習への関心>

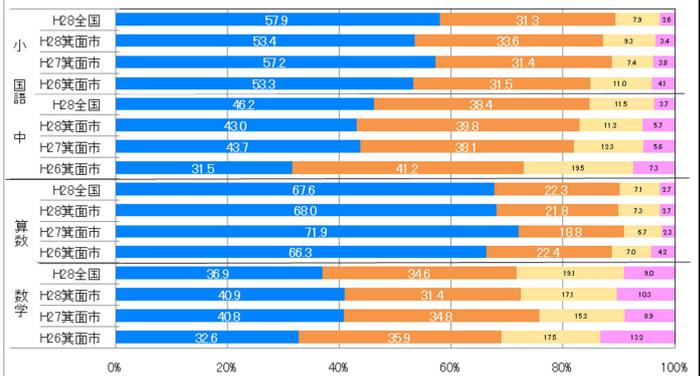
国語、算数・数学の勉強は大切だと思いますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



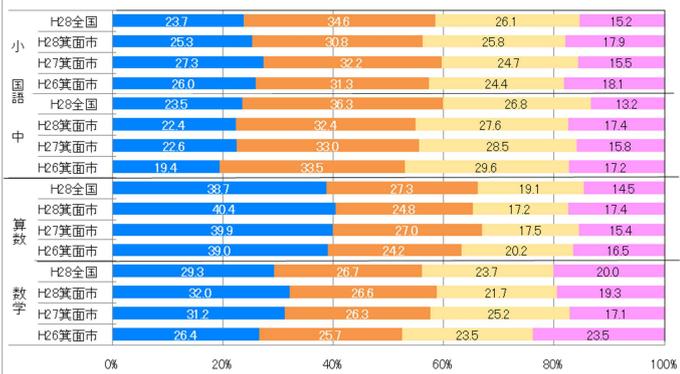
国語、算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



国語、算数・数学の勉強は好きですか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



国語について、大切だと思う、好きだ、又社会に出たときに役立つという回答は、全国と比べてやや低い傾向です。中学校の数学については、どの項目においても全国より高い傾向にあります。

これらの意識は、学習へ向かう動機として大切なものです。自分で考えたり友だちと学び合ったりして、内容を理解していくことで、その教科の大切さを実感したり、生活に役立つことを知ったりしながら、面白く好きになっていくことを大切にしていきます。

## 調査全体のまとめ

(成果)

国語、算数・数学とも児童生徒の肯定的な回答が多く見られました。特に中学校の授業について顕著な変化が見られました。その一つの要因として「箕面の授業の基本」を活用した日々の授業改善が考えられます。

また、「地域や社会との関わり」における肯定的な回答の増加は、学校、家庭、地域が互いに協力し、子どもたちを支えている結果であるとも言えます。

(課題)

「いじめはいけない」と考える回答率が小学校では全国平均を上回っていますが、中学校では下回り、ここ数年、低下傾向にあります。小中とも九割を超える子どもが「いじめはいけない」と考えていますが、すべての児童生徒がそう考えられるよう、毎日の、そして長期の指導を学校、家庭、地域で進めていけたらと思います。

図書館を利用する回数が少ないと回答する割合が増えています。インターネット全盛のこの時代ですが、本でなければできないこともあります。本に触れる様々なきっかけ作りから始めることも大切です。

「学級みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことがある」と回答する割合が低下しています。小さなことでも成功体験を積み重ね、達成感等を感じる回数を増やす、といった工夫を一層考えていく必要もあります。



### 「人とつながる、協力する」力を高めるために

「いじめはいけない」と考える回答率が100%でないこと。「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったがことありますか」という設問に対しての肯定的回答率が近年、減少傾向にあること。これらに共通する課題として、「人とつながり、協力する」という力の育成が考えられます。

#### 親切な行動、またその恩返しをどんどんさせましょう

人は「親切とその恩返し」によってよりよい協力者、よりよい仲間を集めていくことが多いです。(心理学では互恵的利他行動と言います。)自分だけでなく相手に利益があるようにふるまうこと。親切をしてあげたら、それに対して、親切をかえしてくるかどうかで協力者か非協力者かを多くの人は判断しています。学校、家庭、地域で、子どもたちに親切な行動とその恩返しを繰り返させることにより、人とつながり、人と協力する力を向上させましょう。

#### 「やろうじゃないか！」という呼びかけを自らまず出させましょう

周囲の人々に自分と一緒に行動してもらうには、例えば「やろうじゃないか！」と周囲の人々を励まし、気持ちを奮い立たせることが大切です。仲間呼びかけることは物事を協力してやり遂げるときにはとても大事です。スポーツ等でもチームのメンバーが積極的に声を出し、仲間同士で励ましあっています。仲間を鼓舞し、積極的な行動を促すためにも、自らまず声を出す、こうした習慣を、学校、家庭、地域で子どもたちに身につけさせていきましょう。

#### 目的を明確に理解させましょう

活動のめざすところである目的を明確にし、全員がそこに突き進む、ここに協力してやり遂げる嬉しさ、意味があります。全員の気持ちが一つになって同じ目的に向かってこそ、子ども同士がつながり、協力して動くことの強みが発揮されます。つながり、協力が必要な場面では、個々がちがう方向に進むことがないよう、目的を明確に理解できるようにしていきましょう。

#### つながり、協力が必要な環境に子どもたちの身を置かせよう

積極的に他人と交流する場を子どもたちに数多く設定しましょう。一人で何かをするのではない環境に身を置くことにより、子どもたちが自ら「つながり、協力しなければならない」状況を理解し、上記の行動を自発的に始める、こうした環境を学校、家庭、地域で数多く設定しましょう。

# 平成28年度(2016年度)箕面子どもステップアップ調査 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について

## 1 実施の経過

平成21年度に実施され、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、本市の子どもの体力が全国的な状況において課題があることが明らかになりました。

そこで、平成24年度より継続的に子どもの体力状況を把握し、本市の体力向上の取組に生かしていくために、市内の公立小中学校（小学校12校、中学校6校、小中一貫校2校）のすべての児童生徒を対象とする「体力・運動能力、運動習慣等調査」を行っています。

## 2 調査の目的

- (1)教育委員会は、本市の子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校は、自校の子どもの体力・運動能力、運動習慣の状況を把握し、体育・健康に関する指導の工夫改善に役立てるとともに、就学前を含めて中学校区の子どもの体力向上の取組に活かす。
- (3)上記(1)(2)の取組をとおして、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 3 調査の対象

箕面市立小学校1年～6年 中学校1～3年

## 4 調査内容

- (1)児童生徒に対する調査

### ア 実技に関する調査

校 種	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
握 力					○	○	○	○	○
上体起こし					○	○	○	○	○
長座体前屈					○	○	○	○	○
反復横とび				○	○	○	○	○	○
20mシャトルラン				○	○	○	○	○	○
50m 走	○	○	○	○	○	○	○	○	○
立ち幅とび	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボール投げ *1	○	○	○	○	○	○	○	○	○

\*1 小学校は「ソフトボール投げ」、中学校は「ハンドボール投げ」

## イ アンケート調査

運動習慣、生活習慣、食習慣等に関するアンケート調査

### (2) 学校に対する質問紙調査

#### 5 参加人数

小学校1～6年	男子 4,240人	女子 3,768人	計	8,008人
中学校1～3年	男子 1,764人	女子 1,644人	計	3,408人
合計	男子 6,004人	女子 5,412人	計	11,416人

#### 6 留意点

全学年とも業者テストを使用し、平成26年度（2014年度）国の平均、平成27年度（2015年度）府の平均と比較して分析を行う。

#### 7 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの体力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの体力向上へ向けて連携した取組につなげる。

#### 8 公表の方法

- (1)本市の調査結果や分析結果については、数値等を活用し文書等により説明する。
- (2)学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表は行わない。
- (3)各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

#### 9 公表の手段

- (1)教育委員会においては、  
教育委員会ホームページ
- (2)各学校においては、
  - ①各校の実情に応じて「学校（学年）だより」や「学校ホームページ」などで説明
  - ②学校協議会、懇談会などで説明

平成28年度(2016年度)箕面市平均/全国平均 記録一覧

単位	握力 kg	上体起こし 回	長座体前屈 cm	反復横跳び 回	20mシャトルラン 回	50m走 秒	全国平均以上	箕面/全国
							立ち幅跳び m	ボール投げ m
小1男子						11.7/11.5	109.1/114.2	8.1/8.7
小1女子						11.9/11.9	103.6/106.3	5.1/5.7
小2男子						10.8/10.6	124.2/126.2	11.2/12.1
小2女子						11.1/11.0	116.3/118.4	7.2/7.6
小3男子						10.1/10.0	135.9/137.5	14.9/16.4
小3女子						10.4/10.4	127.5/128.2	9.2/9.5
小4男子				35.5/39.4	39.9/46.8	9.8/9.6	141.5/145.7	18.0/20.2
小4女子				33.5/37.5	30.7/37.0	10.0/9.9	136.5/137.4	10.8/12.1
小5男子	16.4/17.0	17.9/20.2	32.9/32.9	39.3/42.9	50.6/54.9	9.2/9.2	152.8/155.0	22.6/23.7
小5女子	15.9/16.8	17.3/18.8	37.5/37.6	38.0/40.6	40.4/44.0	9.6/9.5	146.3/147.9	13.5/14.7
小6男子	16.4/17.0	17.9/20.2	32.9/32.9	39.3/42.9	50.6/54.9	9.2/9.2	152.8/155.0	22.6/23.7
小6女子	19.5/19.4	18.8/20.1	39.6/40.3	41.9/43.6	45.1/50.4	9.2/9.2	153.0/157.3	15.0/16.4
中1男子	22.0/24.6	24.3/24.5	37.1/40.3	48.7/49.5	72.2/73.1	8.5/8.4	174.9/181.0	16.8/18.7
中1女子	21.0/22.0	21.6/21.1	42.4/43.7	45.8/45.5	51.9/53.4	9.0/9.0	161.0/165.0	11.0/11.9
中2男子	27.5/30.2	27.7/28.4	40.6/44.0	52.3/53.0	88.6/90.8	8.0/7.8	189.8/197.7	19.5/21.5
中2女子	23.1/24.4	23.2/23.7	45.1/46.6	47.2/47.1	60.4/61.9	8.7/8.7	165.7/170.7	12.4/13.5
中3男子	32.9/35.4	30.4/30.5	45.9/47.1	55.2/56.1	97.4/97.7	7.5/7.4	203.9/212.4	22.3/24.2
中3女子	24.9/25.5	25.5/24.8	48.4/48.4	48.2/48.0	63.9/60.7	8.6/8.6	168.7/174.8	13.1/14.5

平成28年度(2016年度)箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 偏差値一覧

単位	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
小1男子						48.0▲	47.0▲	48.1△
小1女子						50.0△	47.7▲	46.8▲
小2男子						47.3▲	48.8△	47.9▲
小2女子						48.8△	48.7△	48.3△
小3男子						49.2△	49.1△	47.4▲
小3女子						49.7△	49.6△	48.7△
小4男子				44.6▲	46.4▲	47.0▲	47.8▲	46.9▲
小4女子				44.0▲	45.8▲	48.5△	49.5△	46.4▲
小5男子	48.3△	45.9▲	50.0	45.0▲	47.9▲	50.2	48.9△	48.6△
小5女子	47.6▲	46.9▲	49.8△	45.9▲	47.8▲	48.6△	49.2△	47.5▲
小6男子	49.3△	47.9▲	51.0	47.4▲	47.5▲	49.9△	49.0△	47.4▲
小6女子	50.1	47.4▲	49.0△	47.2▲	47.0▲	49.1△	47.8▲	47.5▲
中1男子	45.8▲	49.6△	46.4▲	48.8△	49.6△	49.1△	47.5▲	46.2▲
中1女子	47.9▲	51.1	48.6△	50.6	49.2△	49.1△	48.2△	47.5▲
中2男子	46.2▲	48.6△	46.6▲	48.7△	49.0△	46.3▲	46.7▲	46.3▲
中2女子	47.3▲	49.1△	48.5△	50.2	49.2△	49.1△	47.7▲	47.2▲
中3男子	46.6▲	49.8△	48.8△	48.5△	49.9△	48.4△	46.2▲	46.7▲
中3女子	48.7△	51.2	50.0△	50.3	51.6	51.2	47.3▲	46.8▲

※全国平均を基準にした偏差値

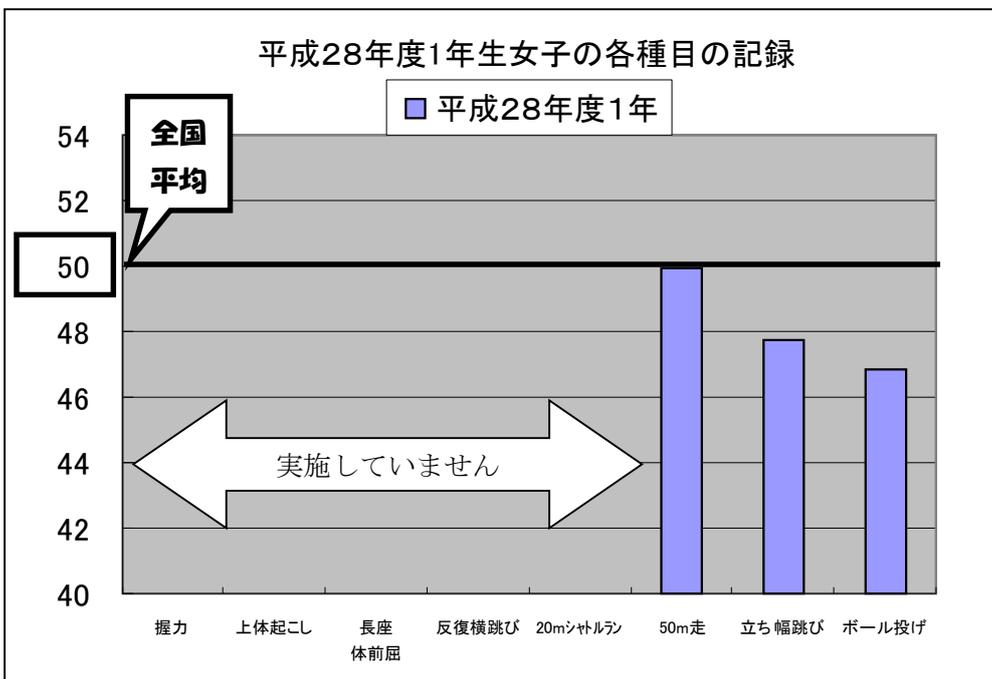
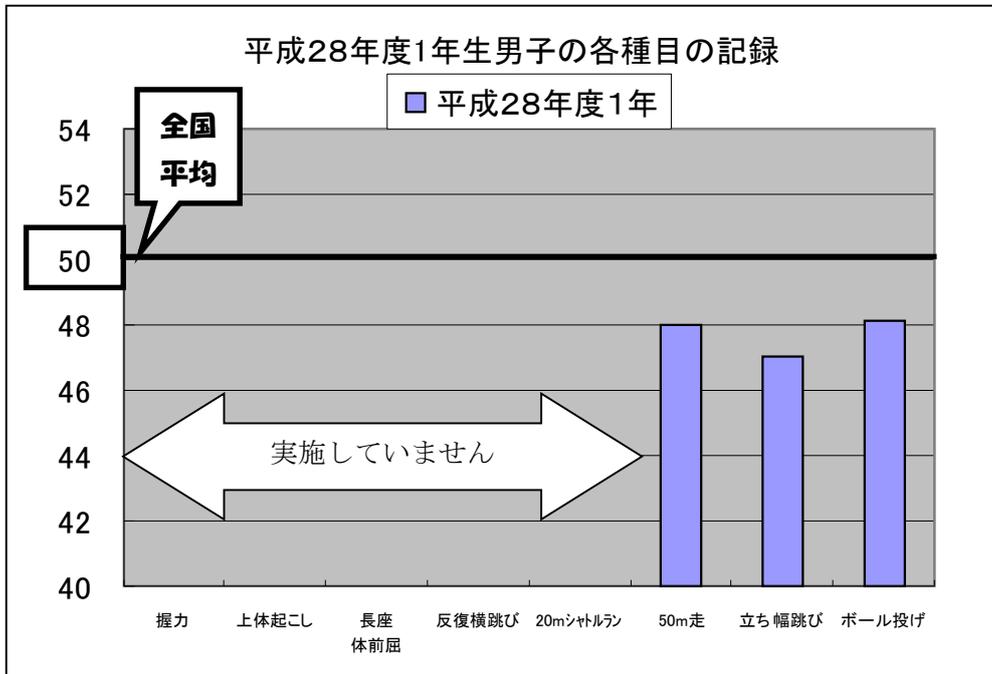
※数字および記号の表記(50以上・・・白抜き 48以上50未満・・・△ 48未満・・・▲)

【概要】

- ◆ 小学校においては、5、6年生の男子の長座体前屈と50m走が、全国平均を上回っています。
- ◆ 中学校においては、3年生の女子が8種目中4種目で全国平均を上回っています。
- ◆ 小学校では、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルランは、全国平均を大きく下回っています。
- ◆ 中学校では、握力、立ち幅跳び、ハンドボール投げが全国平均より大きく下回っています。
- ◆ 小・中学校とも、握力、ボール投げが全国平均より大きく下回っており、ボールの握り方や体を使ってタイミングよく投げることを身につけることが課題です。

# 1年(小1)

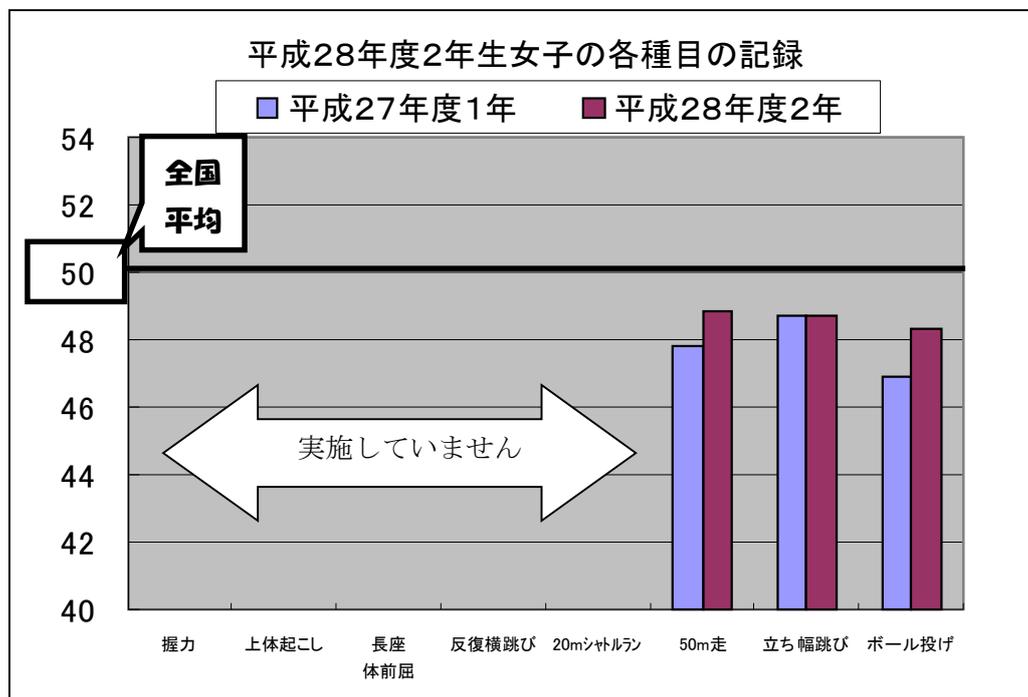
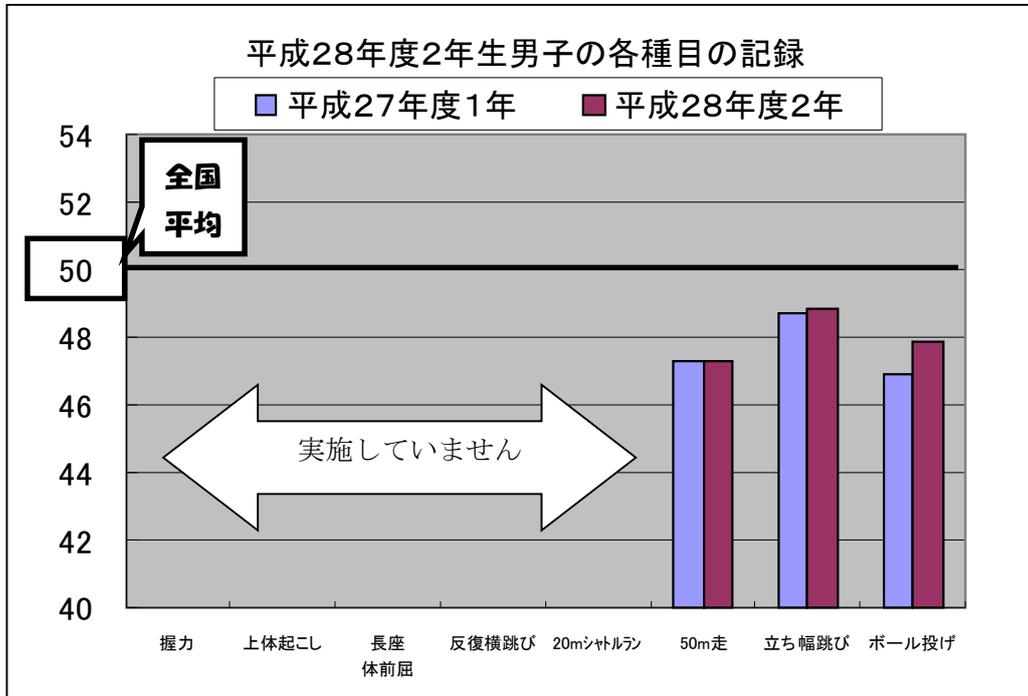
## 各種目結果の学年別経年比較



1年生は、初めて体力運動能力調査に取り組みます。やり方に慣れていない面もあるからか、男子は3種目、女子は2種目において、全国平均値を下回っています。「立ち幅跳び」「ボール投げ」については、男女ともに全国平均値との差が大きく課題であることがわかります。女子の50m走は全国平均値と同じという結果でした。

## 2年(小2)

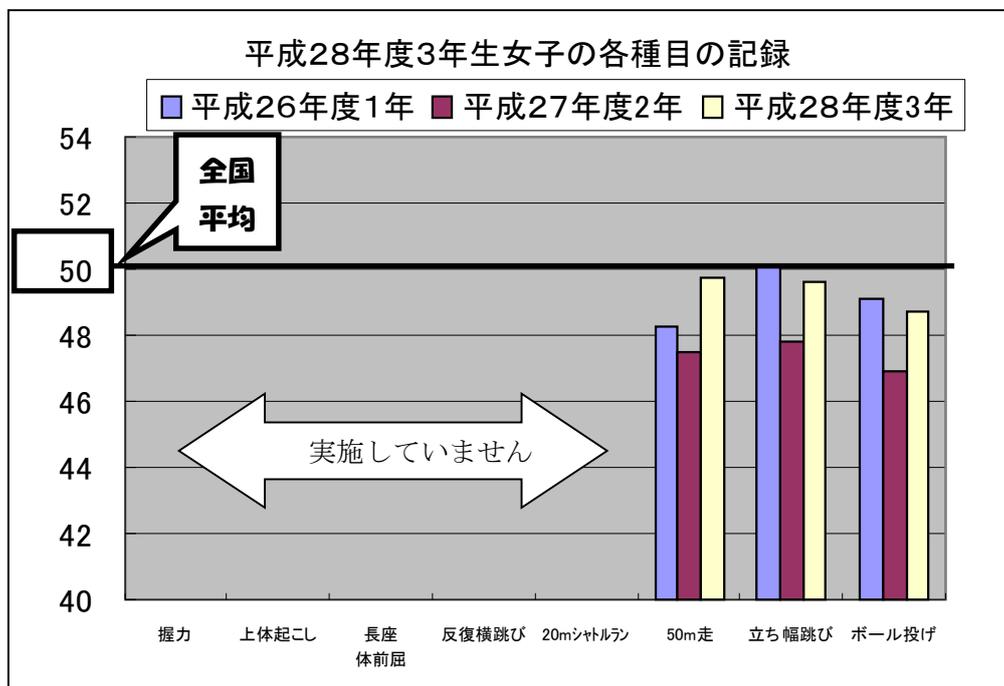
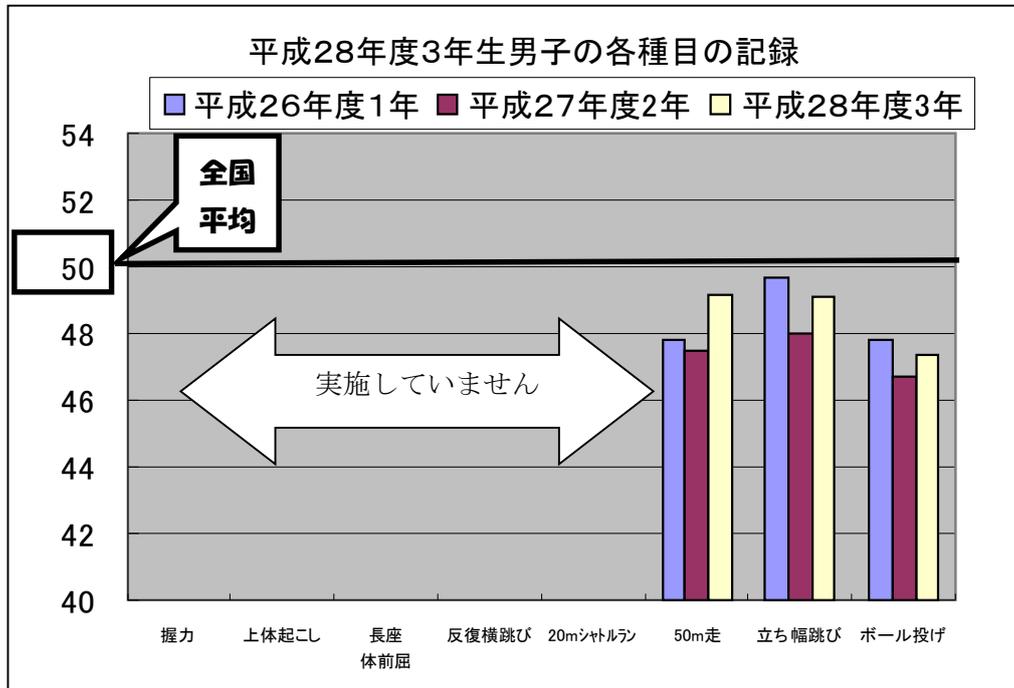
### 各種目結果の学年別経年比較



2年生男女ともに全3種目において、全国平均値を下回っています。昨年度の記録を上回っている種目もありますが、伸びてきています。依然として全国平均との差があり、今後も大きな課題です。

# 3年(小3)

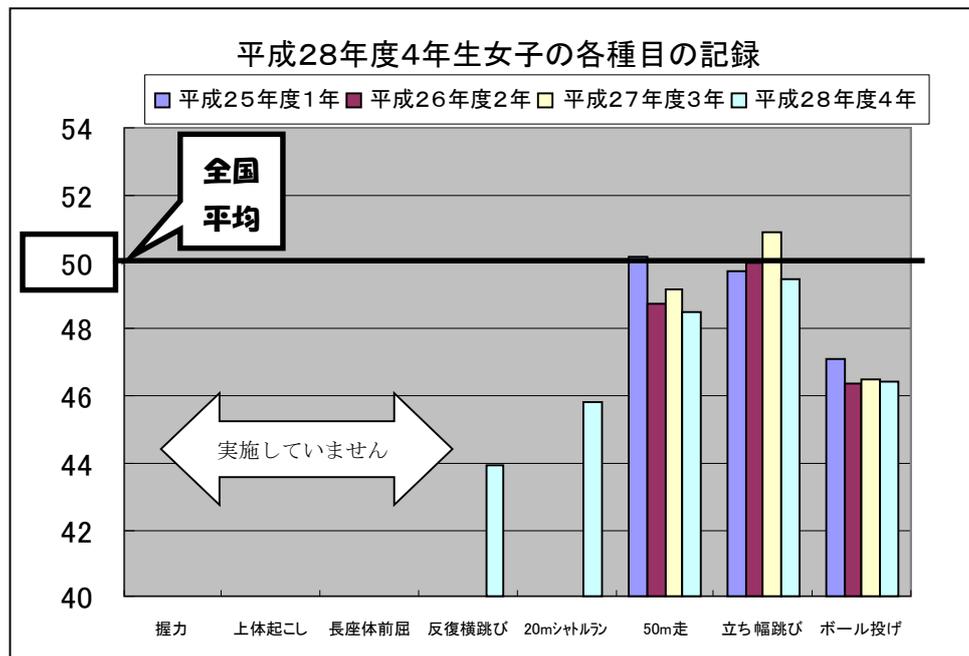
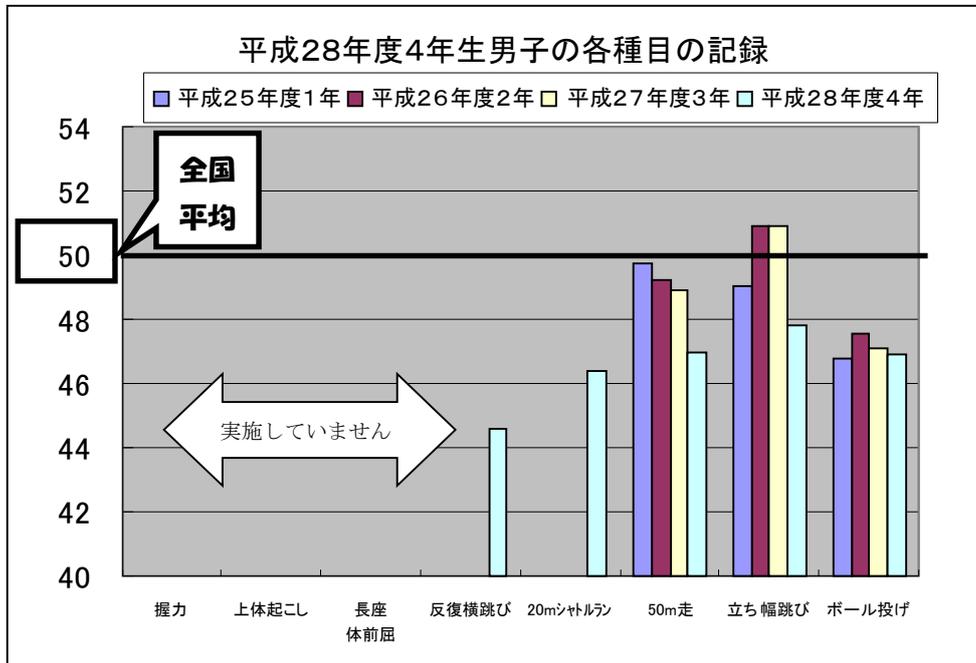
## 各種目結果の学年別経年比較



3年生男女ともに、全国平均値を下回っていますが、昨年度と比べると、記録が上昇し、全国平均値に近づいてきました。特に女子は全種目において、全国平均値に近づいて来ています。しかし、男女ともに「ボール投げ」は全国平均値との差が大きいことが課題といえます。

# 4年(小4)

## 各種目結果の学年別経年比較



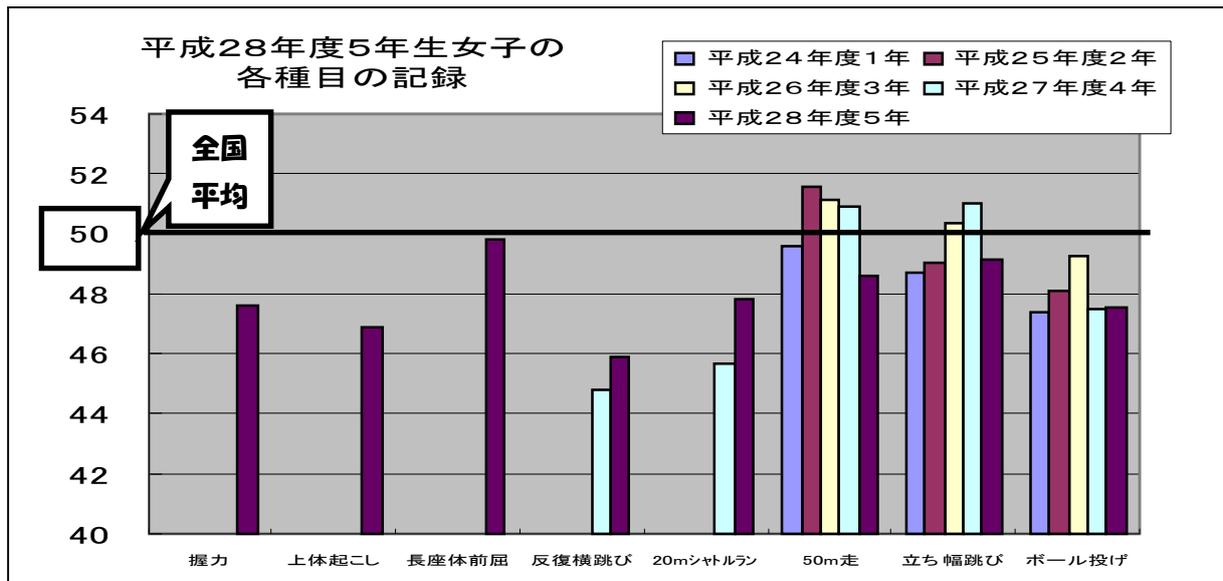
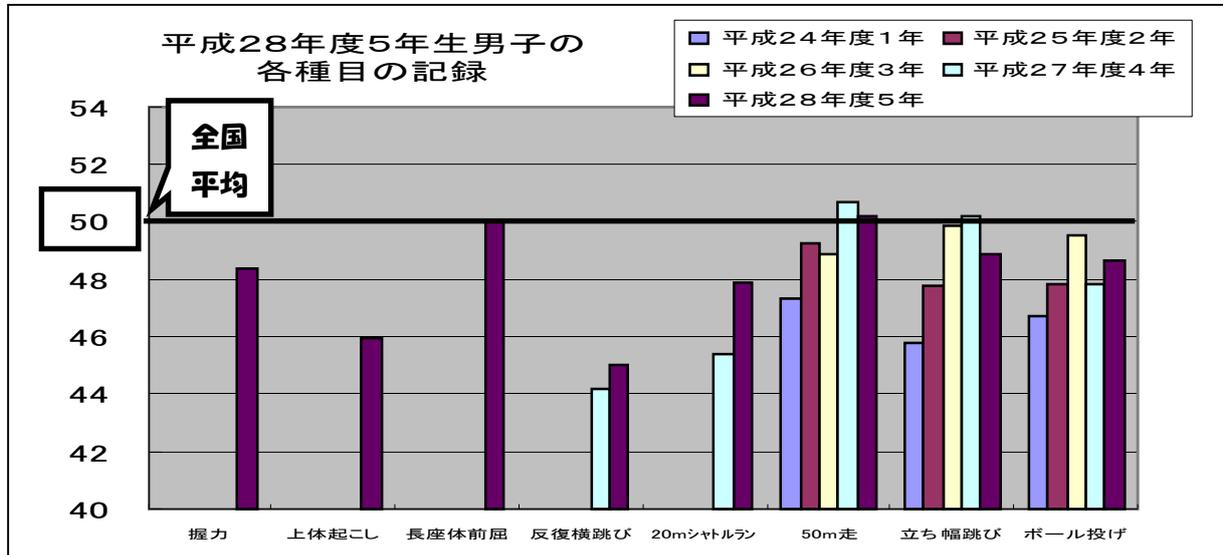
男女とも全ての種目において全国平均値を下回っています。男女とも「立ち幅跳び」において、3年生時まで着実に伸びてきていましたが、4年生では、全国平均値を下回りました。また男女ともに、「ボール投げ」は、依然として全国平均値との差が大きいです。

運動習慣等調査で、「1日の運動時間」の推移を昨年と比較すると「30分より少ない」児童が増加していることがわかりました。

※「反復横とび」「20mシャトルラン」は、4年生から実施する種目です。

# 5年(小5)

## 各種目結果の学年別経年比較



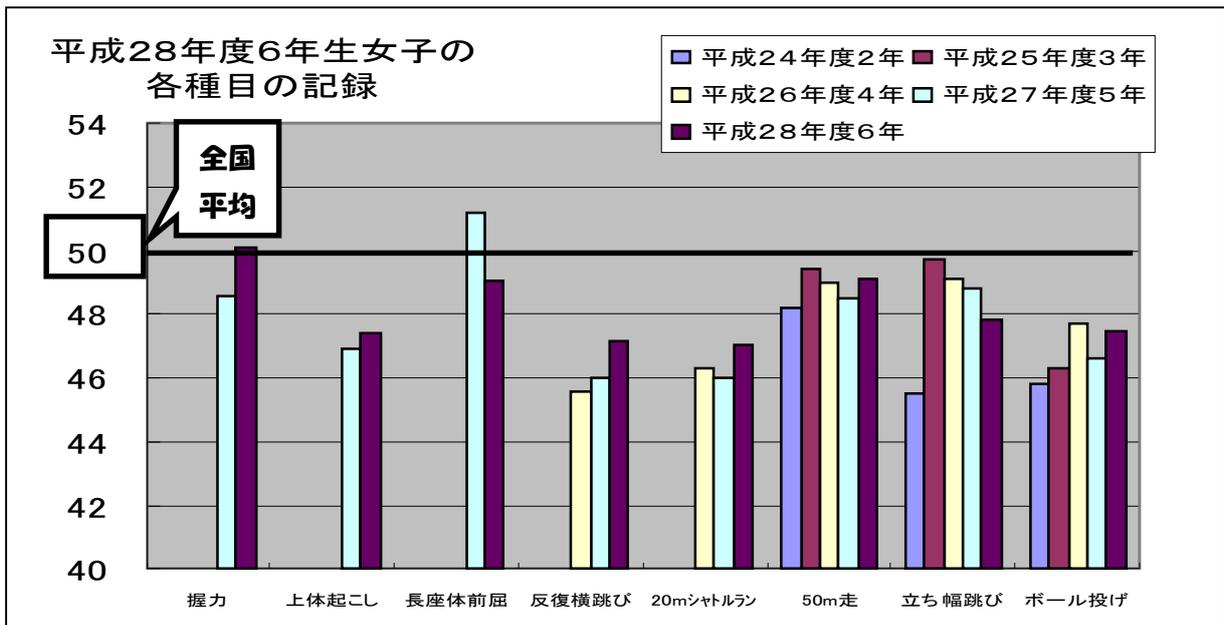
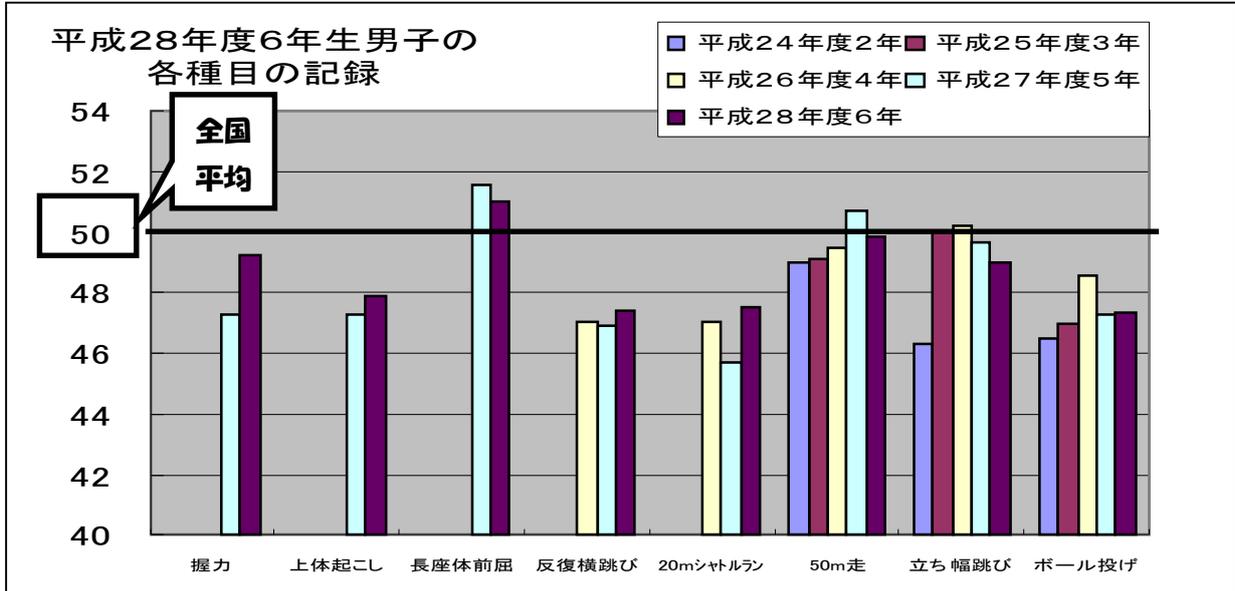
初めて実施した「長座体前屈」は男女ともに全国平均値とほぼ同じですが、「握力」「上体起こし」は全国平均値と大きな差が見られました。昨年度から実施の「反復横跳び」「20mシャトルラン」では、記録が伸びていますが、全国平均値との差はまだ開いています。「立ち幅跳び」においては、男女とも4年生まで着実に伸びていましたが、全国平均値を下回りました。男子の「50m走」において、全国平均値をやや上回っています。また、「ボール投げ」は記録が伸び、全国平均値に近づいてきています。女子の「50m走」「立ち幅跳び」においては、昨年度を下回り、全国平均値も下回りました。

運動習慣等調査で、「1日の運動時間」の推移を昨年と比較すると「30分より少ない」児童が増加している結果がわかりました。

※「握力」「上体起こし」「長座体前屈」は5年生から実施する種目です。

# 6年(小6)

## 各種目結果の学年別経年比較

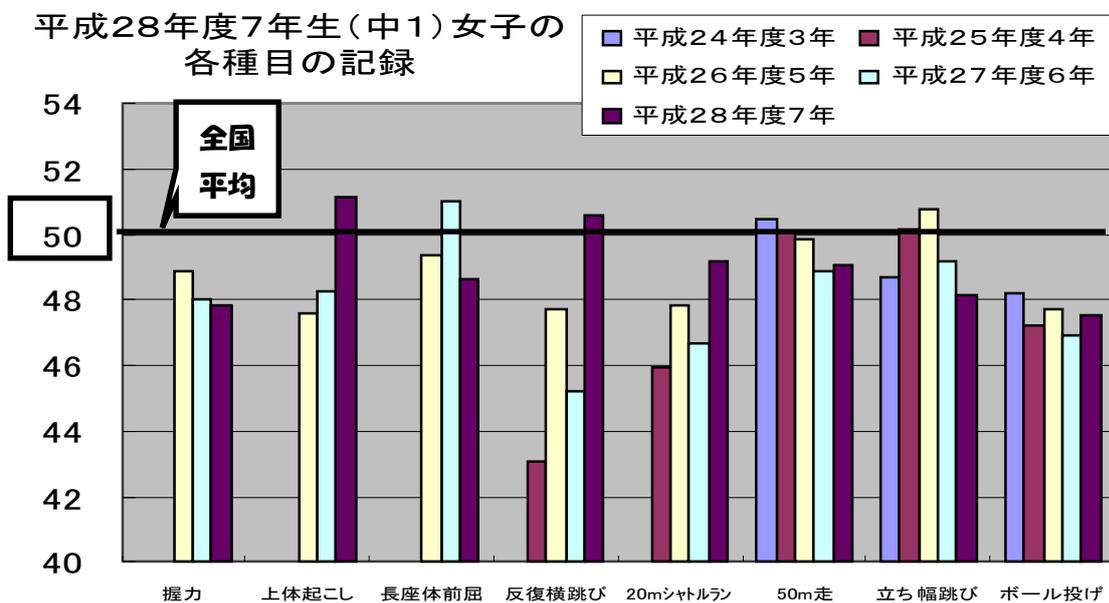
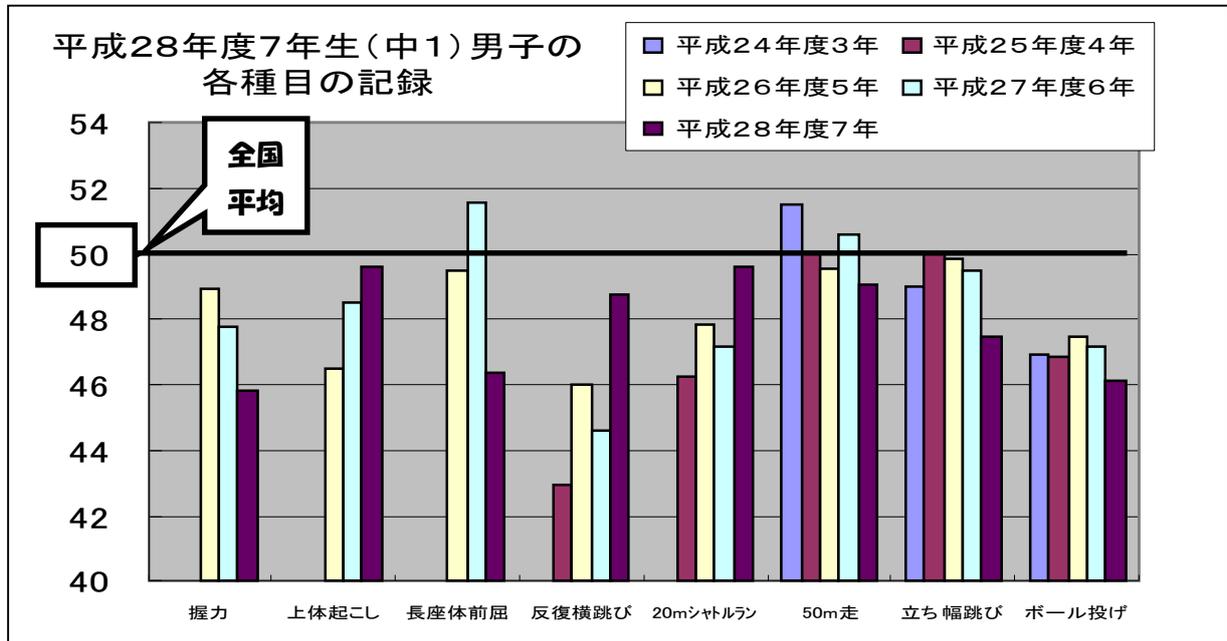


男子の「長座体前屈」は全国平均値を上回り、女子の「握力」は全国平均値です。その他の種目では全国平均値を下回っていますが、前年度と比較すると、女子は「50m走」「ボール投げ」で伸びが見られ、男女とも「握力」「上体起こし」「反復横跳び」「20mシャトルラン」は伸びています。全国平均値とはまだ開きがあるもの多く見られますが、近づけていきたいところです。

特に、「立ち幅跳び」は、年々全国平均値との差が開いてきており、瞬発力の育成が課題であるといえます。

# 7年(中1)

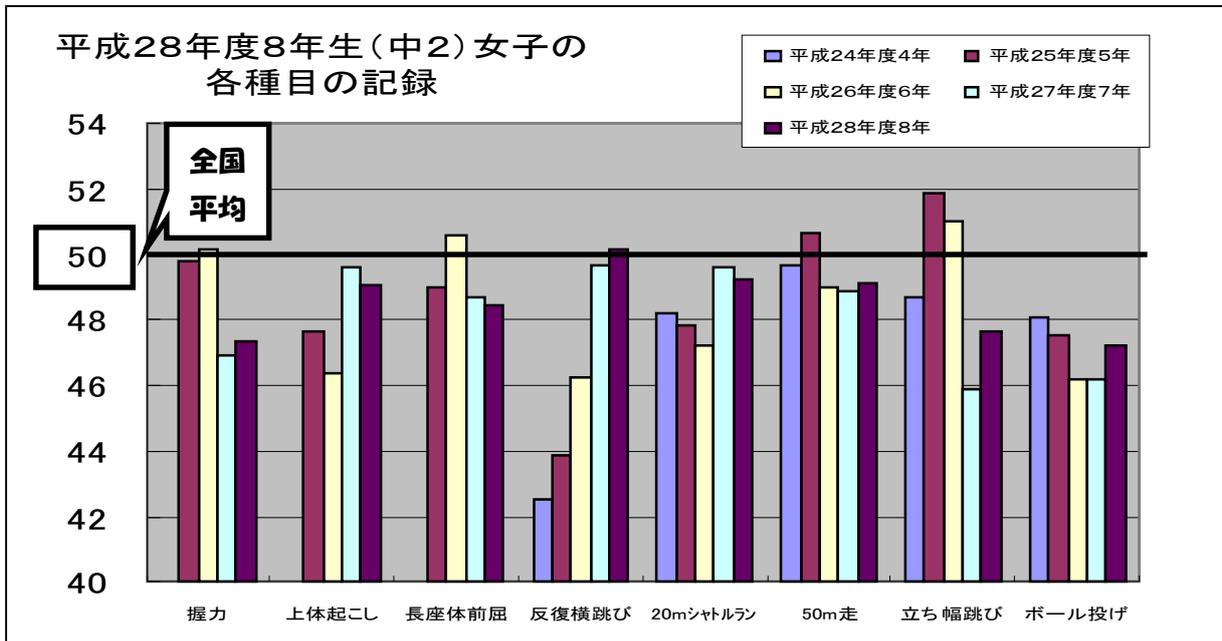
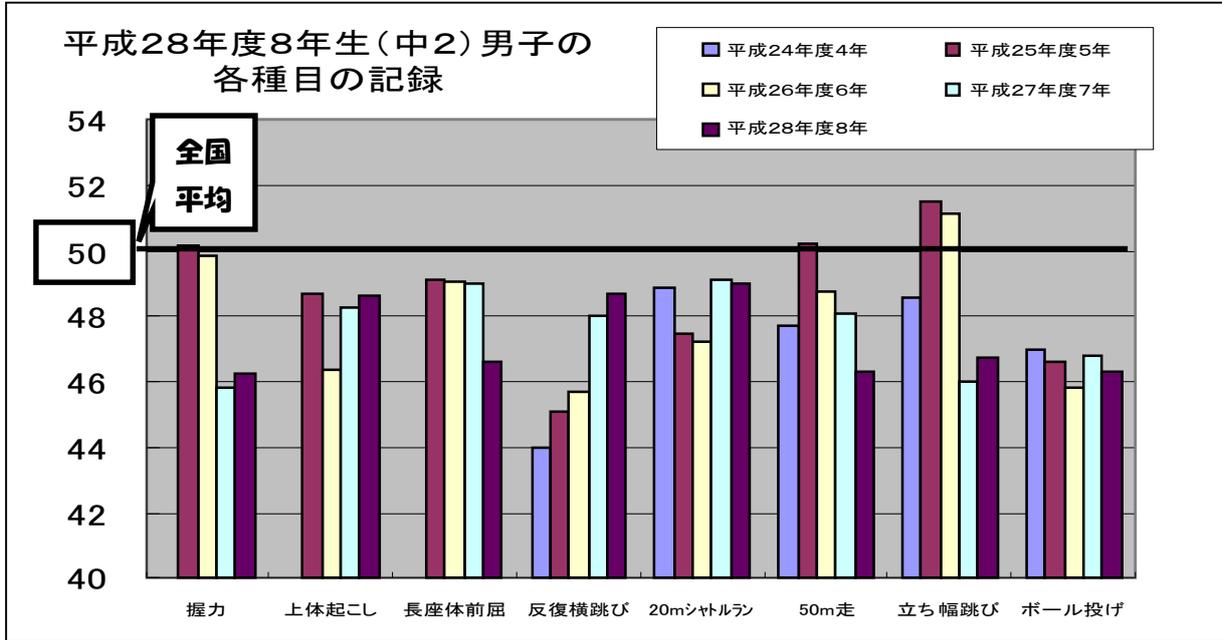
## 各種目結果の学年別経年比較



中学生になり、6年生の結果と比較すると、男子は3種目、女子は5種目で伸びがみられます。女子においては、2種目で全国平均値を上回っています。男女とも小学生で課題がみられた「上体起こし」「20mシャトルラン」「反復横とび」など、中学生になってから伸びている種目があることがわかります。しかし、男女ともに「立ち幅跳び」「握力」が小学校高学年から低下傾向にあります。また、「ボール投げ」は、男女ともに依然全国平均値との差がみられ課題といえます。

# 8年(中2)

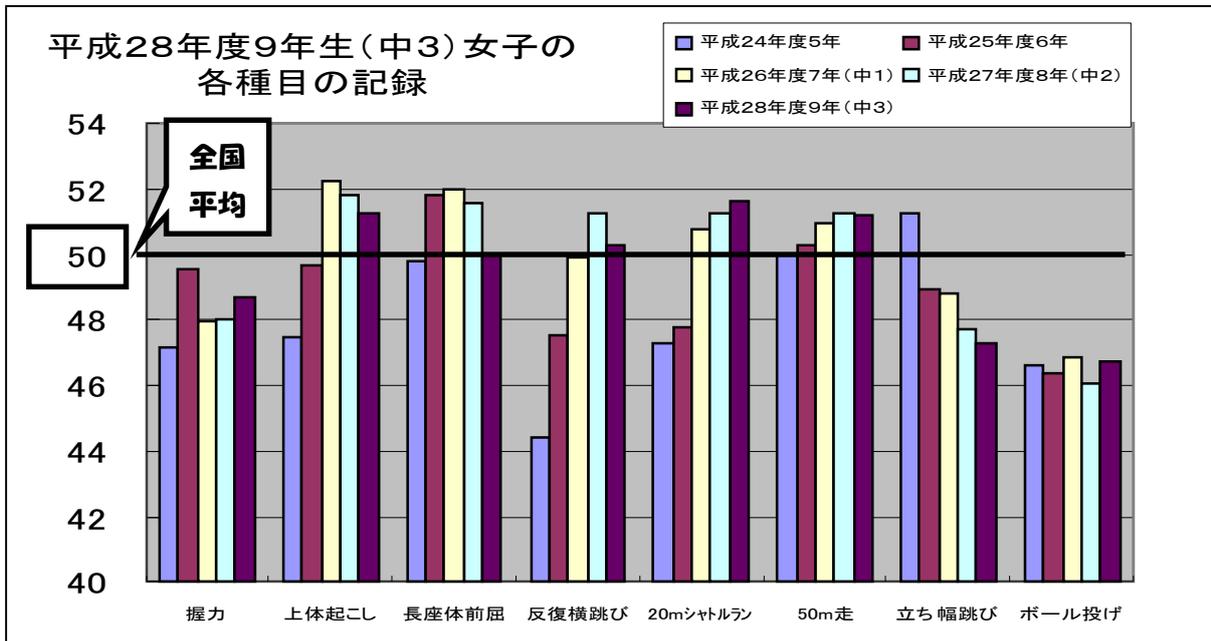
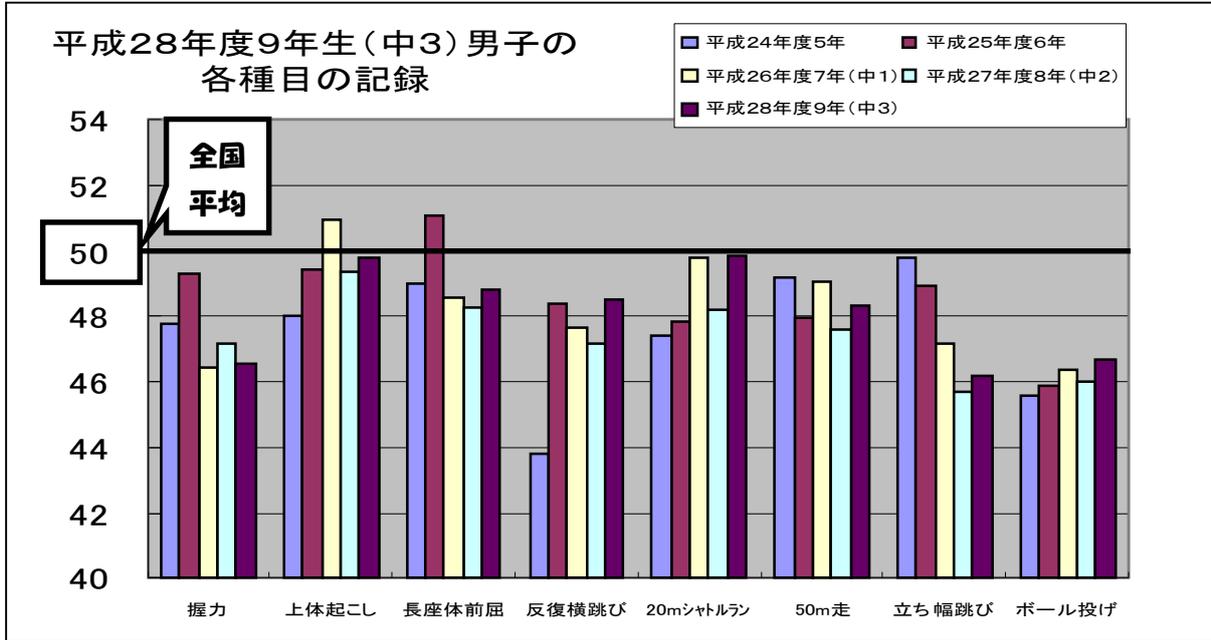
## 各種目結果の学年別経年比較



昨年度と比較すると、女子は5種目、男子は4種目で昨年度よりやや記録に伸びがみられました。「反復横跳び」は男女とも年々伸びています。しかし、男女ともに「立ち幅跳び」が小学校高学年から低下傾向にあります。「握力」も中学生になってから全国平均値とは大きな差があります。さらに「ボール投げ」は、男女ともに依然として全国平均値とは大きな差があります。

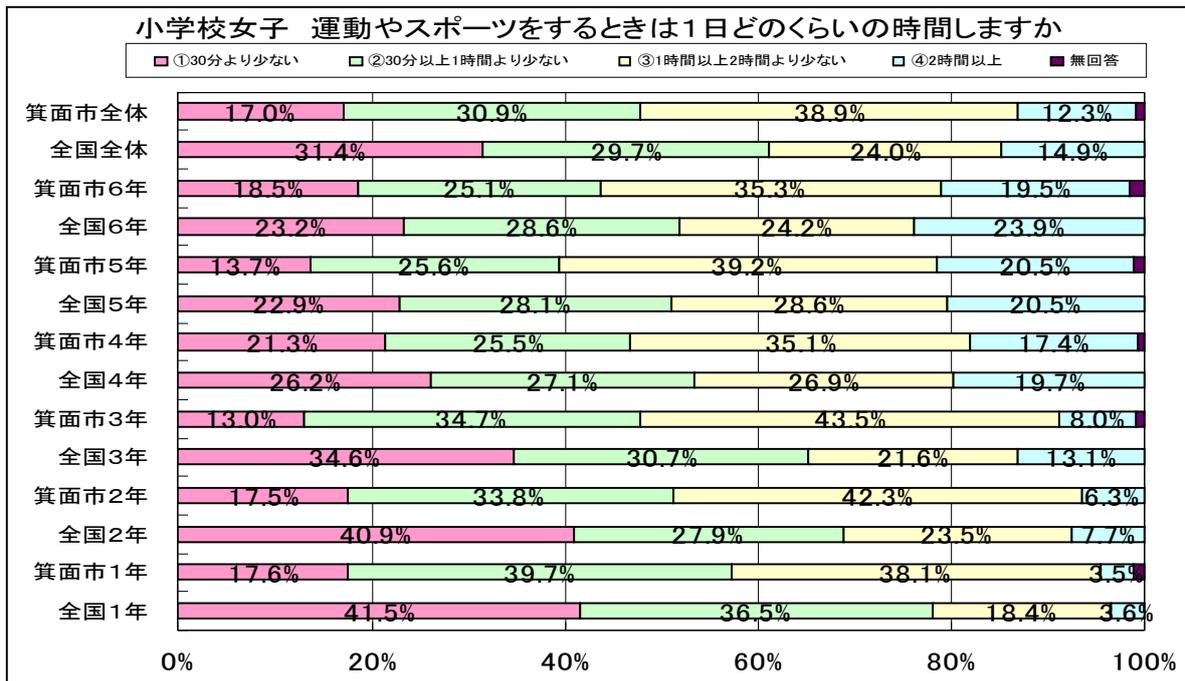
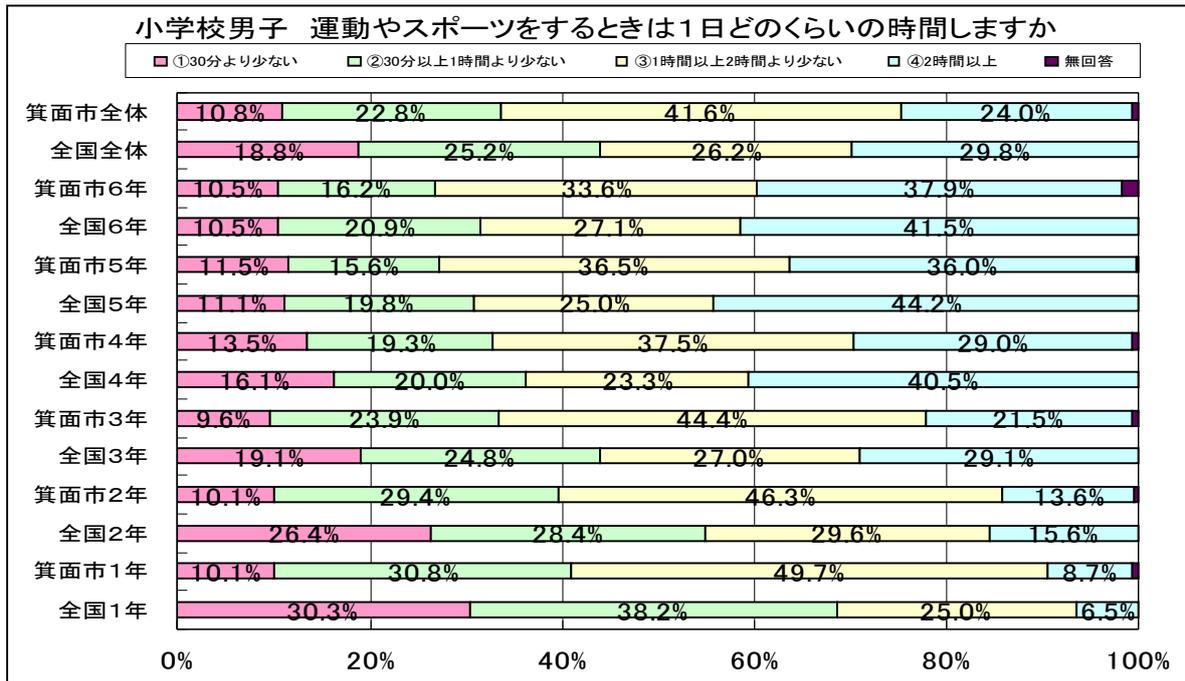
# 9年(中3)

## 各種目結果の学年別経年比較



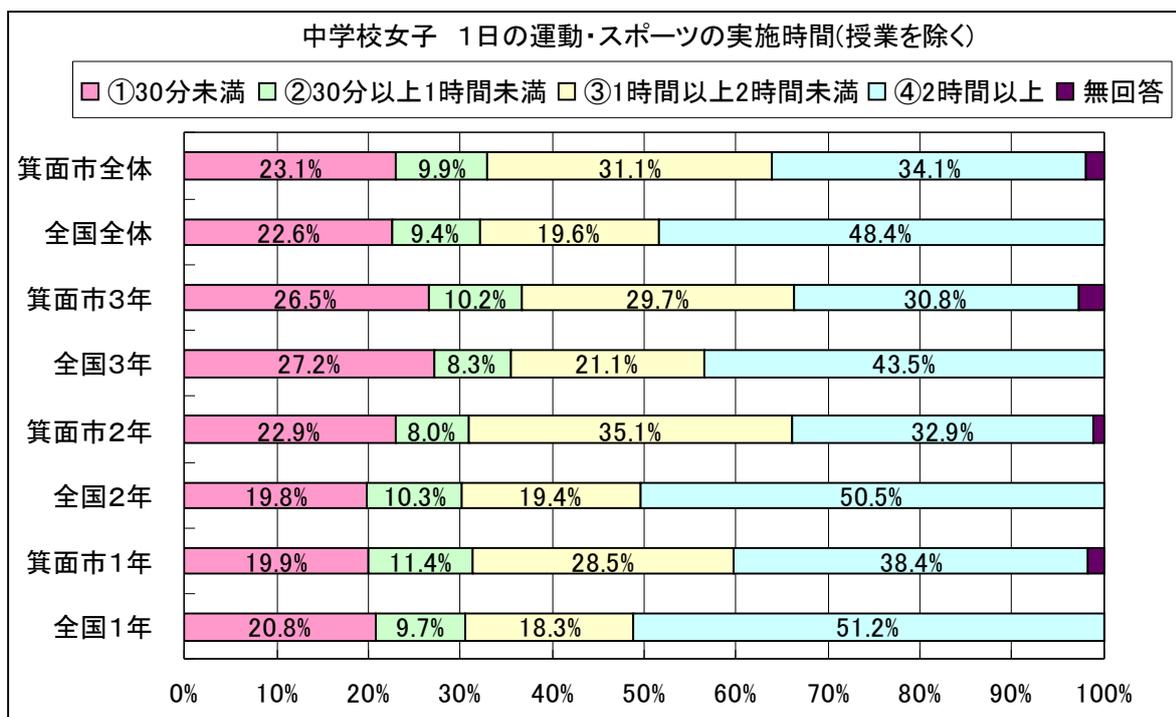
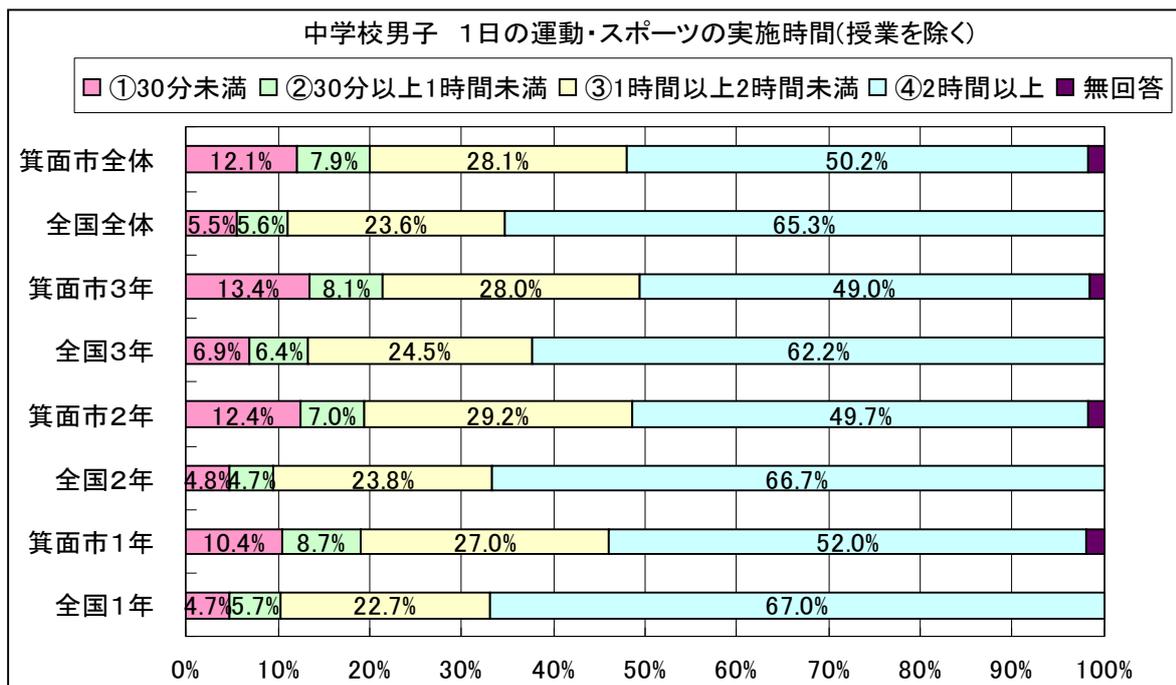
昨年度と比較すると、男子は7種目で、女子は3種目で記録に伸びがみられました。全国平均値に近い種目は男子では2種目、女子では3種目で全国平均値を上回り、2種目が全国平均値に近い結果でした。7年生、8年生の時に課題であった「握力」「立ち幅跳び」「ボール投げ」は男女ともに依然として全国平均値とは大きな差がみられます。

# 平成28年度 運動習慣等調査の結果から



小学1年～3年までは、男女とも1日に運動やスポーツをする時間が「30分より少ない」子どもたちの割合は、全国より少なくなっています。しかし、小学5年、6年の男子は、全国と同じ割合か少し多くなり、5年は昨年度よりも増加しています。

また、「1時間以上運動やスポーツをする時間がある」子どもたちの割合は、全国と比べて多くなっています。日頃から、始業前や休み時間や放課後を利用して、しっかり体を動かし、運動やスポーツに親しんでいることがわかります。

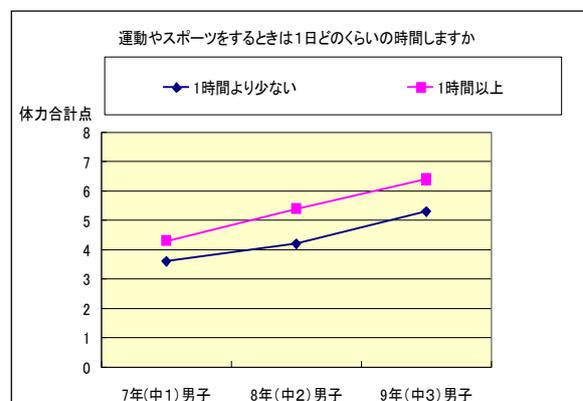
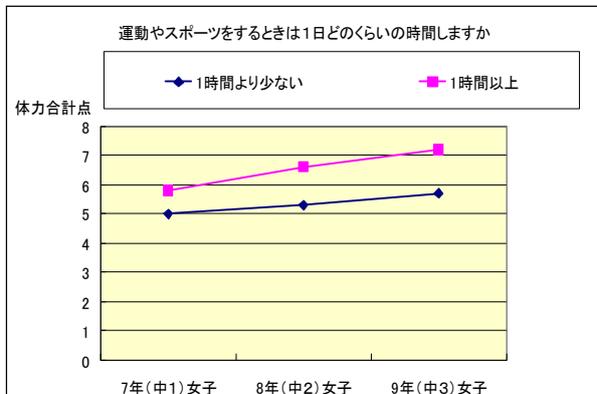
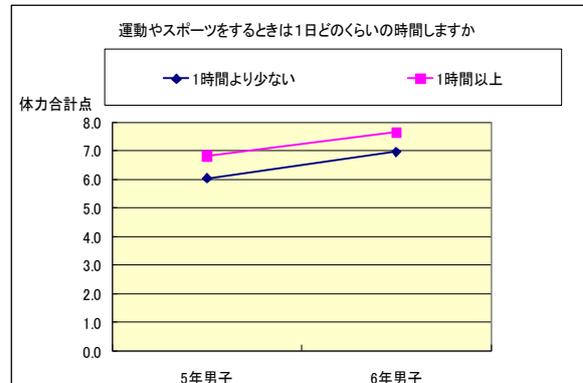
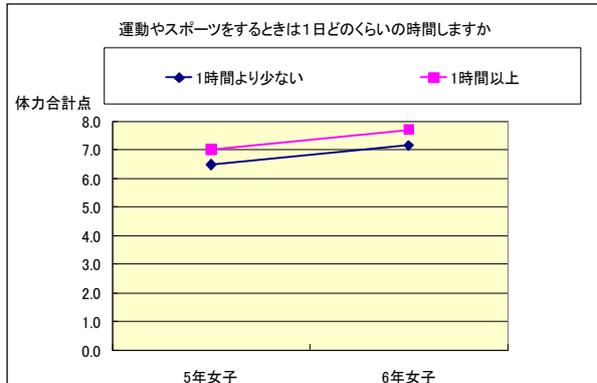


中学男子では、1日に運動やスポーツをする時間が「30分未満」の子どもたちの割合が、どの学年でも全国より高くなっています。また、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合は、全国を大きく下回っています。

中学女子では、1日に運動やスポーツをする時間が「30分未満」の子どもたちの割合が、どの学年でもほぼ同じ割合ですが、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちは、全国を大きく下回っています。全体として、運動やスポーツをする時間が、全国に比べて少ない傾向にあります。

## 平成28年度 運動習慣等調査と体力合計点との関係

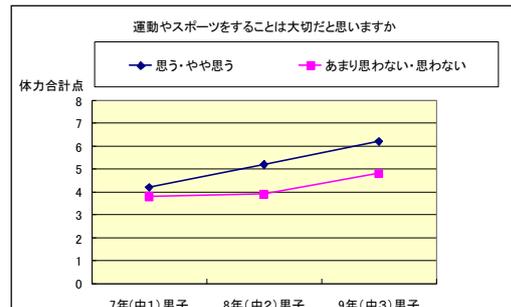
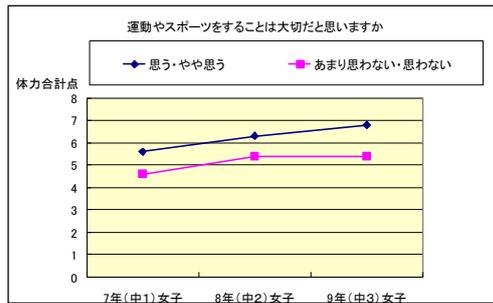
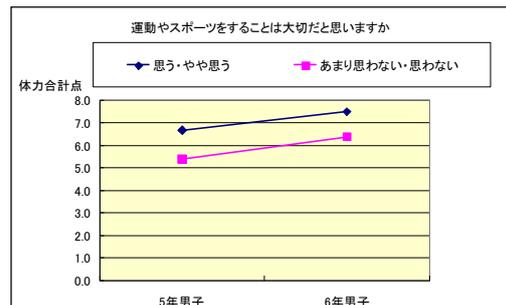
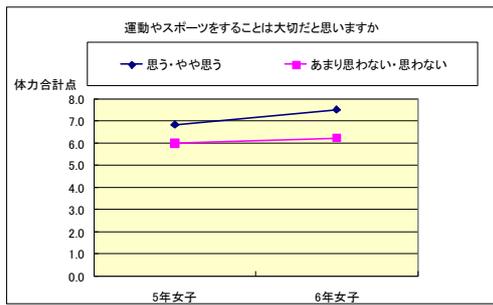
【運動やスポーツをする時間に関して】



どの学年でも、男女とも運動やスポーツを1時間以上する子どもたちの方が、運動やスポーツをする時間が1時間未満の子どもたちよりも、体力合計点が高いことがわかりました。特に中学生での差は、男女とも大きく現れています。

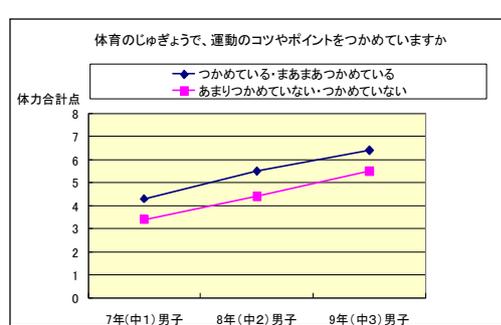
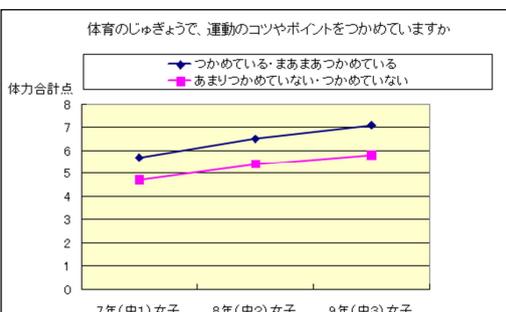
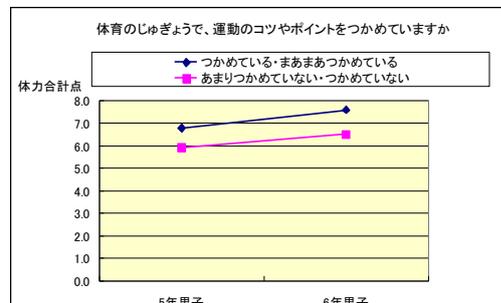
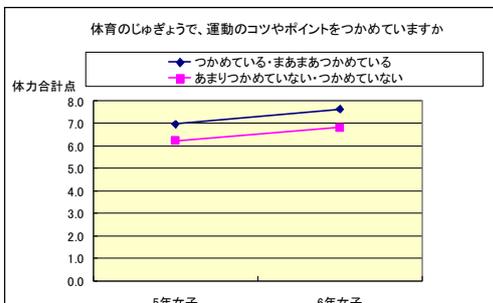
小学校では、朝の時間や休み時間において、運動する機会を増やす取組を実施しています。中学校では、部活動や球技大会等で、運動やスポーツをする機会を増やすとともに、いろいろな運動やスポーツを経験しています。

## 【児童生徒の運動やスポーツに対する意識に関して】



「運動やスポーツをすることが大切である」と意識している児童生徒は、意識していない児童生徒と比較して、体力合計点が高いことがわかりました。運動やスポーツをすることで、健康な生活を送れていることを実感できるようにしていく必要があります。

## 【学校での体育の授業に関して】



体育の授業でできるようになるためのコツやポイントを理解し取り組んでいる児童生徒の体力合計点が、あまり理解できていない児童生徒と比較して高いことがわかりました。

## 学校・家庭・地域がチームとなって子どもの体力アップ！

今年度の「体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均と比較してみると、箕面市の小中学生の体力は、各学年で依然として下回っている種目がほとんどです。経年変化をみてみると、学年や男女別によっては、全国平均と差を縮めている種目もみられます。また、「運動習慣や健康意識についての調査」から、以下のこともわかりました。

- ・小学生全学年において「**1日の運動時間**が1時間以上」が**全国と比較しても多い！**
- ・「**運動やスポーツは大切**」という意識のある小中学生は、**体力合計点が高い！**
- ・「**体育の授業で運動のコツやポイントをつかむ**」小中学生は**体力合計点が高い！**



### 学校では体力向上の取組を継続していきます！

各学校では、体力調査の結果からみえる課題をふまえ、各学校で体育科の授業改善を進め、体力向上に取り組んでいます。各学年の経年比較からもその結果が表れてきている種目もあります。今後も今回の体力調査の結果を受けて、さらに一人ひとりの子どもたちの体力向上を目指していきます。また、初めて実施される種目の結果が特に低い傾向がみられます。原因として、運動する機会の減少やさまざまな運動や動きの経験不足等が考えられます。いろいろな運動体験やチャレンジする機会を増やしていきます。

また、運動習慣等調査と体力合計点の関係で、運動のコツやポイントをつかめている子どもたちは体力合計点が高いことから、学校では「**できた！**」「**わかった！**」と子どもたちが思える体育の授業を引き続きおこなっていきます。ただ、学校で運動やスポーツに取り組める時間には限りがありますので、学校からの帰宅後や休みの日などに、家庭や地域の中でも運動する機会の確保が大切となってきます。



### 大人も子どもも地域もいっしょに

### 「運動やスポーツをすること」を楽しみましょう！！

運動やスポーツが「**好き！楽しい！**」と思える児童生徒は、運動やスポーツに興味関心があり、意欲的に取り組んでいます。ご家庭においては、子どもたちに興味関心をもたせる取組として、運動やスポーツの話題に触れたり、家族と一緒に運動したりする機会をどんどん設けましょう！また、地域においては、各地域でおこなわれている運動・スポーツの行事を広く周知していただき、子どもたちといっしょにぜひ参加しましょう！

さらに、就学前からさまざまな「運動遊び」を通して、豊かな運動経験を積むことが、それ以降の**体力アップ！**につながると考えられます。各中学校区内では幼稚園や保育所とも連携をおこない、体力向上の取組を進めていきます。